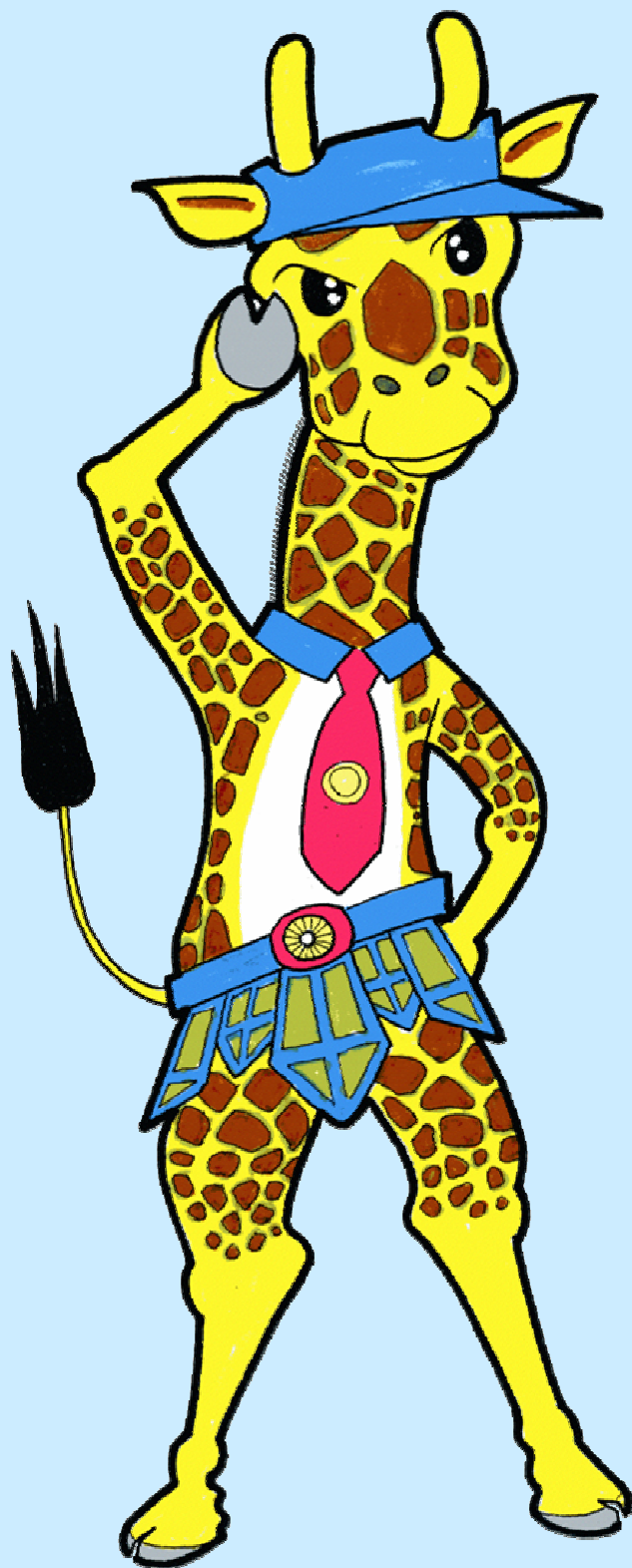


低学年 生活・学習習慣指導の玉手箱



佐賀県教育センター

まえがき

児童の生活・学習習慣は、学力や社会性、道徳性の育成とも深く関連していることが指摘されており、低学年指導の重要な課題となっています。しかしながら、今日の学校現場では、基本的な生活習慣が身に付いていないままに入学してくる児童や、友達との関係をつくれぬ児童、また、授業に集中できず、私語をしたり立ち歩いたりすることを繰り返す児童が増えるなど、いわゆる“小1プロブレム”といわれる問題が大きく報じられるようになってきました。

原因としては家庭や地域の教育力の衰退、子どもを取り巻く社会環境の変化が指摘されています。同時に、学校や教師の側に対しても、幼稚園・保育園から小学校生活へのより円滑な移行や、児童の発達個人差に配慮した適切な対応、児童に対する受容的・共感的な指導が求められているところです。

これらの現状に対処するために、本県におきましても生活・学習習慣と、児童の学力や社会性、道徳性の育成との関連が改めて注目され、平成17年度より小学校低学年に少人数学級又はティームティーチングによる指導の選択性が導入されました。

このような学習環境の整備に加え、佐賀県教育センターでは、平成17年度よりプロジェクト研究の一環として、低学年児童の「学校生活の中で身に付けさせていく生活・学習習慣」を見直し、児童の育ちの連続性に視点を置いた、具体的な指導方法を提案すべく、2か年の研究を進めてきました。

本冊子は、教師が低学年児童の生活・学習習慣の指導に当たる際に心掛けておきたい基本的な考えや指導のポイントなど、2年間の研究の成果を整理しまとめたものです。また、指導の実際としていくつかの指導項目を例として挙げ、具体的な指導の進め方を提案しています。教育センターのWebページ上でも実践を詳しく載せていますのでそちらの方も合わせて御覧いただき、低学年児童の指導に御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが研究を進めるに当たりまして、研究委員会の方々及び多くの学校や関係諸機関の御協力を頂きましたことに改めて厚くお礼申し上げます。

平成19年3月

佐賀県教育センター所長 宮崎 正則

目 次

1	低学年の生活・学習習慣の指導の充実に向けて	1
2	指導のポイント	2～7
3	指導計画の作成	8～9
4	指導の実際	
(1)	整理整とん	10～15
(2)	あいさつ	16～21
(3)	時間を守る	22～27
(4)	掃除	28～33
(5)	友達づくり	34～39
(6)	聞く・話す	40～45
5	指導のアイデアの紹介	46～51
6	指導項目一覧	52～55

教育センターのWebページ上でもほかの実践例や指導案，アンケート調査の結果などを詳しく載せています。

アドレス：http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h18/seigaku/index.htm
教育センタートップページ「授業に役立つ実践研究」 「18年度研究成果 低学年生活・学習習慣の育成」から御覧ください。

1 低学年の生活・学習習慣の指導の充実に向けて

子どもたちによりよい生活・学習習慣を身に付けさせていくことは、学力や社会性、道徳性を育成していく上で、大変重要なことだと言われています。低学年に学校生活における生活・学習習慣を身に付けさせていくことは、その後の学校生活に大きな影響を与えていくと言っても過言ではありません。

学校生活の中で身に付けさせたい生活・学習習慣は、多岐に渡ります。それらを、習慣として身に付けさせていくためには、根気強く継続した指導が必要です。また、子どもが強制されてするのはなく、「自分で」「自分から」できるように内面化を図っていくことが大切です。そこで、指導に当たって教師が心掛けておきたい基本的な考え方を整理してみました。

生活・学習習慣を身に付けさせる理由は？

子どもは、自分の思いや願いを実現させながら成長していきます。しかし、それは、「自分さえよければ」という自己中心的な考えではなく、他者とのかかわりの中で実現させていかなくてはなりません。子どもたちに生活・学習習慣を身に付けさせていく理由は、次の2つの力を育てていくことだと考えます。

一人でできる力・・・自分の責任や義務，役割をきちんと果たす力
みんなと一緒にできる力・・・みんなのもの，みんなの場所だから迷惑を
かけないという公の感覚やみんなと同じという
連帯感

引用文献『こころの支援の上手な先生』光武充雄 著より

低学年の子どもには、まず、一人でできる力を育てていくことが大切です。一人でできる力が身に付いてくれば、他者と協調できるようになり、みんなと一緒にできる力も育ってきます。指導をする際に、子どもたちにもこの2つの力を意識させていくことで内面化を図ることにつながると思います。

子どもができることから指導する

「今年の1年生は もできない」などと子どもを否定的にとらえてしまうと、つい威圧的な指導になってしまいます。そのような指導でも、子どもも表面的にはできるようになったように見えるかもしれませんが、しかし、「自分で」「自分から」という部分は、育っていないことが多いようです。

まずは、今できることから指導をスタートさせることが大切だと思います。子どもを肯定的に理解し、できることを強化していくことが必要です。ちょっと頑張ればできる目標を設定し、そして、できたときの心地よい気持ちを体感させ、価値付け、次のステップへの意欲をもたせていく指導を心掛けていきたいものです。

一貫したやさしさと厳しさのある指導をする

習慣として身に付けさせていくためには、教師の一貫した継続指導が不可欠です。教師の「いやみのないしつこさ」が必要です。子どもにとっても教師のかかわり方が自己規律に大きく影響していきます。子どもの行為に対して、教師が一貫性をもってしかったり、誉めたりしながらフィードバックしていくことがとても大切になってきます。

また、教師自身がルールやマナーを徹底して守り、モデルを示していくことも大変重要なことです。

2 指導のポイント

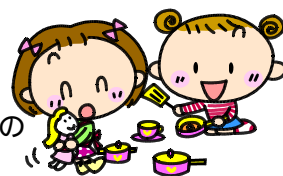
その1 遊びの要素を取り入れよう



なぜ、遊びなの？

遊びは、幼児期の子どもにとって、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であると言われています。

遊びを取り入れることによって、子どもたちを「楽しい」「快い」という気持ちにさせながら生活・学習習慣を育成するための活動を行うことができます。学習集団としても和む雰囲気が出てきます。



先生や友達との遊びの要素を取り入れた活動を通して、心と体の緊張をほぐしたり、安定した情緒を育成したりすることができます。



どんな場面でやったらいいの？

学校生活の一日の始めや終わりの時間(朝の会や帰りの会)など、友達や先生と一緒に心を合わせる場面で行いましょう。リズムカルなあいさつの歌や「合い言葉」に合わせて行う活動があります。

授業の導入段階で童謡や手遊びなどの「歌」から始め、その歌に関連した学習内容へ入る方法があります。また、活動の合間に集中させたい場面で、手遊び歌やリズム打ちを使って聞くときの構えに導くことができます。

言葉遊びを用いて、休み時間のトイレの使い方や廊下の歩き方、次の時間の道具準備を習慣付ける方法があります。

例：登校後の過ごし方の合い言葉

- 「よし、(道具を入れる)
 - よし、(連絡帳を出す)
 - よし、(宿題を出す)
 - よし、(ランドセルを棚に入れる)
- ゴー！」

「ひげじいさん」
トントントントんひげじいさん
(両手をあごの下へ)
トントントントんこぶじいさん
(両手をほっぺたへ)
トントントントんてんぐさん
(両手を鼻の上へ)
トントントントんめがねさん
(両手を目の周りへ)
トントントントんうさぎさん
(両手を頭の上へ)
キラキラキラキラ 手はおひざ
(両手をひざの上に置き、聞く姿勢へ)

授業前に姿勢を整えさせる一方法



一言アドバイス

子どもたちの遊びを、生活のあらゆる場面で取り入れる可能性は十分にあります。遊びの要素を工夫して取り入れ、目的とする行い(生活・学習習慣の育成)や学習場面へと導くようにしましょう。



その2 指示は視覚化し分かりやすくしよう



なぜ、視覚化？

低学年の子どもは、「情報が入る箱が1つしかない」と言われるように、一度に複数の情報を処理することができません。たくさんの指示を出してもすべての指示を理解できなかつたり、すぐに忘れてしまつたりすることがよくあります。その結果、たくさんの指示を出しても1つの指示しかできなかつたという具合になりがちです。

その上、内容が複雑になると、言葉のみの指示や説明では理解できません。複雑な内容は、写真や絵を提示したり実演をして見せたりし、視覚的にとらえやすいようにしていくことが大切です。また、作業の手順や活動の流れを指示するときなどは、作業の途中で次の手順を忘れたときにも分かるように、図示しておくことが必要です。



どんな場面でやったらいいの？

子どもが親しみをもてるようなキャラクターを作り、提示することで注目させたり話の内容に見通しをもたせたりすることができます。右のキャラクターは、実践例「整理整とん」の指導で使われている「スッキリン隊長」です。



登校後の道具の片付け方や次の授業の学習道具の準備の仕方など手順を理解させたり、毎日行わせたい行為について説明をしたりする場面では、写真や図の使用が有効です。例えば、左の図を提示し「これと同じように次の時間の準備をしましょう」と指示をすれば、子どもは、図をまねして、準備をすることができます。定着の様子を見ながら、しばらくの間、毎時間の終わりにこの図を黒板に提示しておくといよいでしょう。

スッキリン隊長



一言アドバイス

指示や説明をするときは、「今から2つお話しします」などと最初に伝え、見通しをもたせて聞かせるようにしましょう。指示や説明の内容を整理し、簡潔にまとめて話すことを心掛けるようにしましょう。

視覚的な刺激は子どもに入りやすい分、多すぎると集中できない状況を作ってしまう、指示が通らなくなります。集中させたい場面では、刺激が少ない環境を整えることが必要です。

その3 形から入る指導も大切



なぜ，形なの？

低学年の子どもにとって「なときには～だから，このようにするのですよ」という理屈から入った指導は，必ずしも有効ではない場合があります。この時期の児童は，物事の因果関係自体，まだ理解が難しい発達段階です。言葉では分かったつもりでも，行動がついていけない場合が往々にしてあるからです。そのような場合，“形から入る指導”を考えてみてはどうでしょうか。まずその行為を覚えさせることを念頭におきます。理屈は抜きにして，“のときは～するのですよ」という行為自体を先に教えるのです。もちろん，どうしてそのことが必要なのかを教えることも大切ですが，そこに支援のエネルギーを注ぐのではなく，形を教えることを中心に考えるのです。

“形から入る指導”とは，子どもたちに強制的に教え込む，という意味ではありません。子どものために“枠組みを作る”という意味です。学校生活のいろいろな場面で生活・学習習慣を身に付けていく必要のある子どもたちにとって，こちらで枠組みをすることは，理解のしやすさにつながり望ましい行動を学びやすくなることにつながると言えます。



どんな場面でやったらいいの？



4月当初なるべく早い時期に取り組む方がよいと思われれます。まず，望ましい行為の見本を教師がします(モデリング)。そのモデルと同じようにすることが自分のためになり，みんなのためになることを示した後，練習させます。うまくできたらほめてやり，みんなでやろうという意識付けをします。

授業の始まりの場面で，“日直のお友達の『気を付け』の合図があったらみんなで『はい』と声を合わせながら，手を体の横にピシッと付けます。これが気を付けの姿勢です”と教えます。

また，“机の引き出しは右と左の部屋に分けます。左の部屋は置いておく道具(はさみ，色鉛筆，のりなど)を入れ，右の部屋には持って帰る物(教科書，ノート，筆箱など)を入れます。帰るときには，右の部屋の底が見えるようにしないとけません”と使い方を説明する場面があります。

学校にお泊まりをさせておく部屋	家に持って帰る物を入れる部屋
はさみ，色鉛筆，のりなど	教科書，ノート，筆箱など

【引き出しの使い方説明図】

毎日の活動に応じて実行すると同時に，例えば，“気を付けの仕方”“引き出しの中身”などを教室掲示で示し，いつも意識できるようにします。

(p. 3 ポイントその2の視点より)



一言アドバイス

その行為を定着させるためには，一貫した指導が必要です。やったり，やらなかったりでは，定着しません。

その4 繰り返しを徹底してみよう



なぜ、繰り返しのの？

低学年の子どもたちにとって，“繰り返し”の指導は，とても大切であると考えられます。子どもたちの生活自体が，日々の繰り返しという特徴があるからです。何のためにするのか，必ずしも明確になっていないにしても，とにかくその場ではそういうふうにするのだということを，繰り返し行動させることが，習慣化への糸口になります。

子どもたちは，学習したことをすぐにそのまま身に付けることはできません。一歩ずつ，階段を上るようにして身に付けていきます。初めて知ったこと，従来はできなかったことを身に付けていくわけですから，繰り返し経験することが大切です。そのうえで，どうしてそうすることが必要なかを理解し，理由と行為とが結び付いたときに定着していくものと思われま



どんな場面でやったらいいの？

「このような場面では， のようにする」と最初にクラスで決めたら，あらゆる場面で同じように取り組めます。例えば，「話の聞き方」であれば，授業中，朝の会，帰りの会，集会・・・など話を聞く場面では同じように取り組む必要があります。

「 週間」という取り組みを学級活動で話し合っ

て，指導項目の重点化を図る方法があります。

本読みカードや「よいこのくらし」など毎日自分で行う自己評価カードについて，教師と本人と保護者で取り組む意義を確認し，約束を決めて取り組む方法もあります。

「話の聞き方・話し方の約束」

話す人は 一人。
聞く人は 全員。

この合い言葉を，全校朝会や各学級・学年でも統一していつでもどこでも実践する。



一言アドバイス

ある程度習慣化が見られるまでは，繰り返してその行為を奨励しますが，パターン化で飽きてしまわないように，バージョンアップを図ったりレベルを上げたりして工夫をしましょう。

例：引き出しの整とんから「引き出しコンテストをしよう」
忘れ物チェックカードから「忘れ物ゼロ大作戦」など

子どもたちの行為が定着していく大きな要素に，教師からのフィードバックがありますが，児童のとった行為についての適切なフィードバックが，子どもたちの意欲へとつながり，確実な定着へと向かうと思われま

その5 教師との1対1の関係が大切



なぜ、1対1なの？



低学年の子どもは、学校生活の中で一番多く接する学級担任との関係において、安定した情緒の基で自己を十分に発揮しようとし、教師との1対1という絶大な信頼関係の基に、快適な学校生活を営むことが求められます。また、低学年の子どもは、学校生活において人への信頼感と自己の主体性を形成することが発達上の課題とされています。自分の行動を一番に認めて努力を評価してくれる大人は、学校生活においてはやはり教師です。教師との相互関係をもつことにより、一層発達が促されます。

「先生は、^{アイ} と思ったよ」など先生自身が自分の^{アイ}メッセージとして、子どもたちに自分の言葉で考えや思いを伝えることが信頼関係を築くうえでも重要です。



どんな場面でやったらいいの？



連絡ノートを書くときに、その子どもに愛情やユーモアのあるメッセージをできるだけたくさん書いていくようにしましょう。家の人から「これ、先生の何のマーク？」など子どもに聞き返すことを仕組んでいき、子どもと教師との信頼関係があることを保護者にも理解していただきましょう。

教室を出て帰るときに、子どもたちは一列に並んで先生と「ハイタッチ」や「握手」などをして、1対1で触れ合う機会をできるだけ多く作りましょう。

子どもの正面にいつも立つばかりではなく、横に並んで同じ目の高さで話をしたり、声を掛けたりすることで子どもに安心感を与えることができます。

「元気のいい声がよく返ってくる、^{アイ} さんですね」とその子の名前とよさや長所を合わせた言い方で、授業中や休み時間などを過ごしてみましょう。



【タンバリンでハイタッチ】

帰りの会などで、「先生のとっておきの話」という題名でスピーチを行い、教師の趣味や特技など普段と違った内容の話や体験話を子どもたちに語ってみましょう。

日記指導は、一人一人の子どもとのコミュニケーションを図るよい機会です。コメントを通して、その子を励ましたりほめたりしましょう。また、担任オリジナルのマークやちょっとしたシールを添えてやることも良いでしょう。



一言アドバイス

単なるほめ言葉で終わるより、^{アイ}メッセージとして伝えてほめましょう。

その6 保護者との信頼関係が大切



なぜ、保護者なの？

生活・学習習慣の育成にかかわる子どもの行いは、家庭生活とも密着しており、行いに関する目的と保護者の役割について理解と協力が重要になります。

保護者からの苦情や要望に対して、「誠実さ」と対応する「スピード」の速さは信頼度を高めます。苦情や要望も学級や子どものためと考えて割り切り、経験を積ませてもらっているととらえて、プラス思考で対応することが大切です。



どんな場面でやったらいいの？



連絡帳などで毎日の子どもの様子を伝えたり、生活面での協力をお願いしたりしたいとき、できるだけ多く子どものよさを伝えましょう。

連絡帳での対応は、以下のような3点で実践しましょう。

まず、お礼を書く。

苦情や要望の内容によっては、直接お会いして話したいと書く。

学校生活で頑張っていることや友達関係で気遣っていることなど、その子のよさを具体的に書く。

保護者から苦情や要望があったとき、困っているのは子どもなのか、あるいは保護者であるのかを判断し、苦情や要望の内容を整理し、問題を受け止めながら承認するよう努めましょう。

我が子に対して無関心な保護者への対応として、悪いことがあったときだけに限らず、日ごろからよいこともできるだけ多く伝え、何気ない会話からその子どものよさが分かったことやその日の様子などを連絡帳や電話で伝えることを心掛けましょう。

参観日を利用して家庭での実践につながるような内容(食育, 歯磨き, 読書推進など)を授業で取り上げ、保護者の理解と協力を呼び掛けましょう。

学級通信や学年便りなどで、学級全体の様子と一人一人の子どもの様子が具体的に分かる内容や指導の方針などを分かりやすく伝える工夫をしてみましょう。



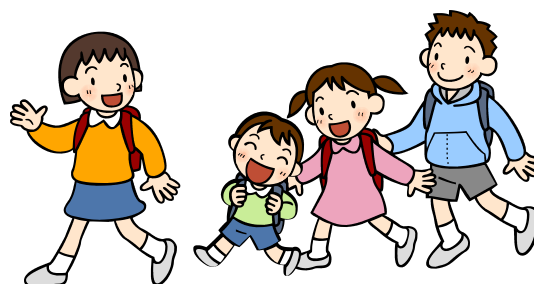
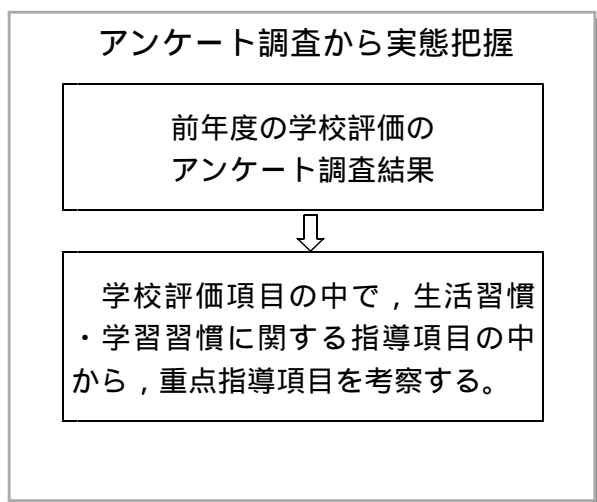
一言アドバイス

担任は学級集団から一人一人の子どもを見ますが、保護者は我が子から学級集団を見るという方向性の違いがあることを踏まえ、相手の立場を理解し、こちらの立場も理解してもらえるように努めましょう。

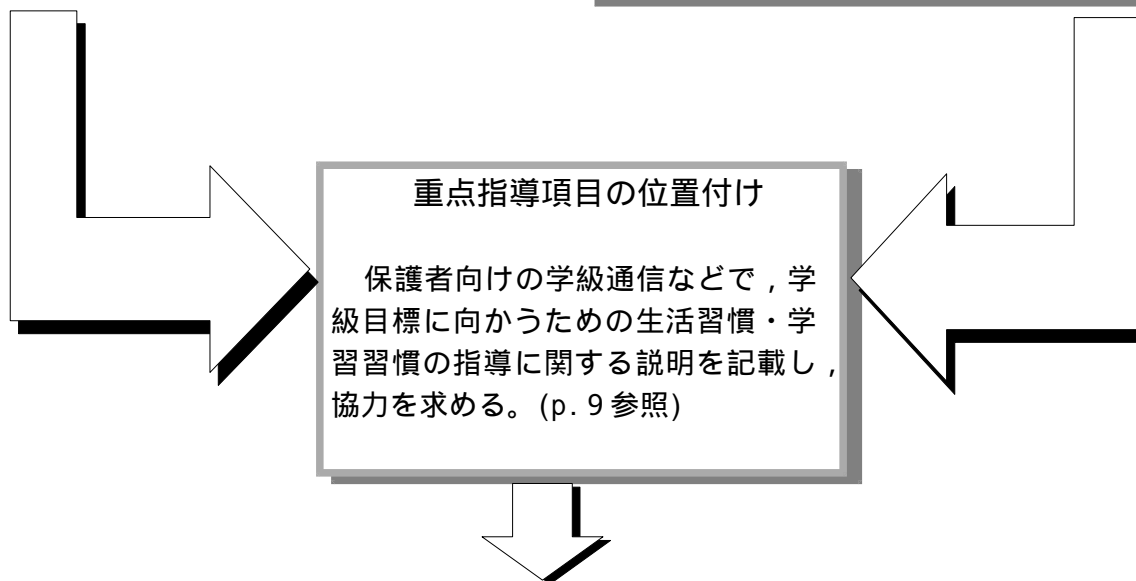
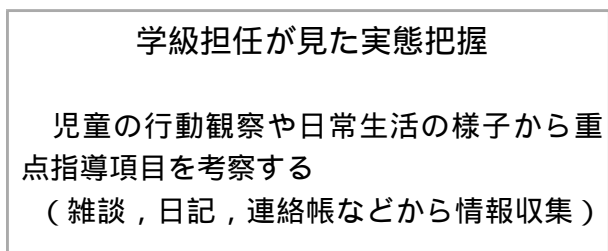
3 指導計画の作成

低学年の生活・学習習慣の育成にかかわる指導計画については、以下のような手順で重点指導項目を選択し、学級経営案の中に位置付け、1年間の指導全体を見通した手立ての計画を立てて実践してみましょう。 (p.10～ 指導の実際参照)

< 学校経営の観点より >



< 学級経営の観点より >




年間指導計画立案の留意点

- 1 望ましい習慣化を図るため、各学期ごとに到達目標を決定する。
- 2 到達目標を実現するため、できるだけ細分化した手立てを考える。
- 3 3学期までの到達目標と手立てについて系統性を考慮し、計画する。
- 4 指導項目を実践する際に中心となる学級活動、道徳、国語等各教科、領域について適切な時期と時数等の配分を考慮し、年間計画表に位置付ける。

(p.10～ 指導の実際参照)

【学級経営案を説明するための学級通信の一例】

年度当初に以下のような学級通信を配布し、学級目標や学級の実態などについて説明します。通信の内容等に対する意見や感想を記入できる欄を設け、保護者とやり取りができるようにしておくこと、共通理解を図るきっかけになると思います。

小学校 1年 組	
学級通信 第1号(創刊号)	<h1>えがお</h1>

学級担任の 〇〇 〇〇 です。1年生の子どもたちと一緒に、笑顔で楽しく元気に学校生活を送りたいと思い、この通信名を「えがお」と名付けました。入学説明会の折にも説明をしましたように、1年生のこの時期によりよい生活習慣と学習習慣を身に付けておくことは、子どもの自立にかかわる意義があり、ぜひ身に付けて欲しい大切な習慣です。

つきましては、担任としてこれらの指導に関しまして、以下のようなビジョンをもち、指導の重点を置いて子どもたちにかかわってまいりたいと思います。どうか、みなさまの御理解と御協力のほど、よろしくお願いいたします。

1年 組 学級目標	
一人はみんなのために みんなは一人のために	
今日は、 ちゃんと一緒に 続きをしよう！	 めざす児童像
今日の生活科の時間は いっぱい遊んで、 ちゃんと作りたいな。	
生活・学習習慣を身に付け、自分の身の周りの人々や 自然・社会との交わりを楽しみながら進んで学ぶ児童	

上記のような学級目標と目指す児童像に向かうために、「一人でできる力」と「みんなと一緒にできる力」を意識させながら自己規律を一人一人の子どもに求め、集団生活の望ましい習慣を身に付けさせていきます。





【生活習慣】 学校生活における基本的な生活習慣を身に付けさせるためには様々な指導項目がありますが、現段階では、「あいさつ」と「時間を守る」という2つの指導項目を重点的に指導していきます。 主に、朝の会や帰りの会など日常的に繰り返し指導を続けながら、道徳や学級活動の時間では、節度ある生活態度や規則の尊重等の価値について考えさせたりし、みんなと一緒に実践する意欲を高めさせていきたいと考えています。	【学習習慣】 学力向上の要となる学習習慣を身に付けさせるためにも、様々な指導項目があります。中でも、「聞く・話す」という指導項目を重点的に取り扱っていきます。 具体的には、国語の時間はもちろんですが、朝の会でのスピーチタイムや毎時間の学習の中で指導を行っていきたくと考えています。頑張りカードなどで自分自身を振り返らせる取り組みも行っていますので、どうぞ、御協力をお願いします。
【一人でできる力とみんなと一緒にできる力】 学級や学校集団の中で一人一人を育てるために、「自分でできた」という達成感や「自分はいくやっている」という心地よさを感じさせたいと思います。そして、「みんなと一緒にできた」という達成感や「協力して役に立てた」という心地よさも感じさせたいです。 そのためにはまず、自分のよさや自信をもたせるような活動を取り組ませます。次に、少しずつ他の友達のよさに目を向けさせながら、身の周りの人々に対して進んで仲良く接していきこうとする態度や意欲を育てていきます。	

<一筆コーナー> サインもしくは、一言感想を記入され、今週末までに学校へ持たせてください。

4 指導の実際(1) (第1学年)

整理整とん

指導項目の年間計画

		1 学期	2 学期	3 学期
目 標		自分の物を決められた場所に しまうことができる。		
			自分の物の片付け方が分か り、使いやすく整理できる。	
				進んで自分の物やみ んなで使う物を整理で きる。
指 導 上 の 手 立 て な 取 り 組 み	学級活動等の実践	道具のしまい方(引き出し・ロッカー)、衣服のたたみ方の指導 道徳の時間 「おもちゃかいぎ」	学級活動 「すっきりせいとん」	学級活動 「みんなでつかうものをきれいにしよう」
		<p>< 始業前 > 入学当初、道具がきちんとしまえているか確認し、指導する。6年生数名に補助してもらう。 引き出しについては、「しまい方の見本(写真)」を掲示し、視覚的にとらえられるようにしておく。</p> <p>< 朝の会・帰りの会 > 定期的に引き出しチェックと片付けタイムを実施する。 朝の筆箱チェックをする。</p> <p>< 休み時間 > 次の授業の「道具の出し方見本(写真)」を黒板に掲示し、それを見ながら準備させるようにする。机の上だけでなく、引き出しの中、机の周りも意識させるようにする。 合い言葉も一緒に掲示する。 『つくえ・ひきだし・あしもとばっちり、やすみじかん』</p> <p>< 帰りの会 > 今日の「ピカピカ賞」で、スリッパ並べ・学級文庫の整理・掃除用具の後片付けなどよいことを紹介する。</p> <p>< 学期末 > 「かたづけじょうずさん」の表彰をする。</p>		

学級活動等での取り組み

題材名 すっきり せいとん

目標

- (1) 引き出しをきれいにしておくための方法について考え，話し合うことができる。
- (2) これからの自分のめあてを決定し，きれいに整とんしようとする意欲をもつことができる。

本時の展開

活 動 内 容	指導上の留意点 評価
<p>1 『ちょっと！ちょっとちょっと整とん大会』をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5分間で自分の引き出しを整とんする。 <p>2 3つの引き出しの写真を見て，日ごろの自分の引き出しの状態を振り返る。</p> <p style="text-align: center;">A すっきり B まあまあ C ぐしゃばら</p> <p>3 本時のめあてを知る。</p>	<p>“すっきり引き出し”の写真を提示し，それを目指して整とんさせるようにする。</p> <p>整とんできたかどうかは自分で判断させ，できている児童には，すっきりシールを与える。</p> <p>事前の片付けタイムの数日後に乱れてしまった引き出しの写真(Bまあまあ・Cぐしゃばら)を掲示し，整とんしたすぐの写真と見比べさせ，気付いたことを発表させる。 (p.12 資料)</p> <p>自分の引き出しの状態について考えさせ，課題につなげる。</p>
<p>いつも“すっきり引き出し”にしておくには，どうすればいいか考えよう</p>	
<p>4 “すっきり引き出し”だと，どんないいことがあるか考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道具が出しやすい ・ 取りやすい ・ きれいに見える ・ スッキリな気持ち ・ 気持ちいい ・ 使いやすい ・ なおすのも簡単 ・ ほめられる ・ 物がなくなりにくい </div> <p>5 “すっきり引き出し”を続けるために気を付けることを話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ きれいにおく ・ 使ったらすぐに元の場所にもどす ・ プリントはプリントはさみに入れる ・ 休み時間に整とんする </div> <p>6 整とん調査隊のスッキリン隊長の話聞き，きれいにしておくための作戦を考え，カードに自分のめあてを書く。</p>	<p>使うときの違いを考えさせ，整とんされている場合の便利さやすっきりとした心地よさに気付かせる。</p> <p>片付けた後きれいな状態を長続きさせるには，どんなときにどういうことをすればいいかについて考えさせ，解決策を話し合わせる。</p> <p>日ごろからよく整とんされている児童数名を紹介し，気を付けていることを発表させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>整理整とんが続く方法を考え，話し合うことができたか。(行動観察，発言内容)</p> </div> <p>スッキリン隊長が毎日引き出し調査をすることを伝え，作戦を決めて実行していくようにする。 (p.12 資料)</p> <p>具体的な行動を助言する。</p> <p>これからの取り組みを確認する。 (p.12 資料)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>自分のめあてを決めて書き，作戦の意欲をもてたか。(カード内容，行動)</p> </div>

資料 引き出し写真の掲示

A すっきり



B まあまあ



C ぐしゃばら



資料 スッキリン隊長とその話



1年生の諸君，私は整頓調査隊の隊長「スッキリン」です。私の仕事は，きれいに整とんされている引き出しやロッカーを見付けて回ることです。きれいでない引き出しがあれば，注意してきれいにさせることもあります。君たちの引き出しは，いつもすっきりとしているかな？

これから10日間，毎日君たちの引き出しを調査したいと思っています。いつ調べに来るかは教えません。私が調べに来たときにあわてて片付けるのはだめです。私はきれいな引き出しをたくさん見せてほしい。さっき，学習したように，きれいな引き出しだといいいこともいっぱいあるから，ぜひ頑張ってください。

資料 いつもすっきり大作戦カード

いつもすっきりだいさくせんカード 1ねん3くみ()

スッキリンたいちょうに、きれいなひきだしをみせたいね。ながいあいだきれいにしておくためにはどうしたらいいかな？ さくせんをかんがえよう。

さくせん



ふりかえろう



さくせんがきちんとできた



すこしできた



できなかった

日	  	日	  
日	  	日	  

日常的な取り組み

1 登校後の道具のしまい方と過ごし方

登校後にすることを表に書き、黒板に掲示します。

- 1 ランドセルをいすに置く。
- 2 道具を引き出しに入れる。
- 3 ランドセルをロッカーに入れる。
- 4 歯ブラシ・体操服・水筒を決まったところに置く。
- 5 トイレに行って用をすませる。
- 6 お絵かき・本読みなどをして待つ。

< 留意点 >

表には、絵を入れると手順がより分かりやすくなります。

実際に道具を入れた引き出しを用意したり、写真を掲示したりして、見本を示し、自分でできるようにさせましょう。



4月は、毎朝6年生4～5名に手伝ってもらおうとよいでしょう。
ロッカーについても、道具を置く場所を決めておきます。

2 次の時間の学習道具の準備（机の上の整とん）

< 視覚を利用して、次の時間の準備 >



【机上の準備の仕方を示すカード】

< 活用の仕方 >

休み時間の始めに、次の時間に必要な道具のカードを黒板に掲示します。

子どもは、それを見て机の上に準備してから、休み時間に入るようにさせます。

机の上の準備だけでなく、引き出しの中や机の周りが整っているかということも意識させるため、合い言葉を掲示しておくともよいでしょう。「机・引き出し・足もと ぱっちり！」(p10)



教師の説明なしで子どもはカードを見ながら準備することができるようになります。

繰り返し行うことで、学習準備と使いやすい道具の置き方を習慣付けさせたいものです。

< 留意点 >

時期をみて、カードを掲示しなくても準備できるように指導することが大切です。

3 お道具袋の活用

< 低学年児童が整理できる道具の量を考えよう >



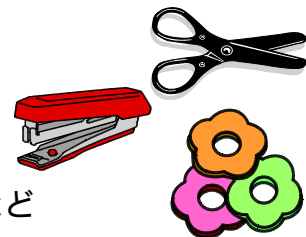
子どもは、たくさんの道具を使います。その多くを引き出しの中に入れておくと、引き出しの中がいっぱいになり、整とんがしづらく、出し入れも困難になります。

発達段階を考え、引き出しの中の道具は、低学年でも整理できる(しやすい)量にしておいた方がよいでしょう。

そこで、お道具袋を準備し、いくつかの道具をそれに入れさせます。お道具袋は、机の横などに掛けさせるようにします。

のり
はさみ
セロテープ
ブロック
おはじき

など



4 定期的な引き出しチェックと整とんタイム

活動の流れ

帰りの会の終わりに引き出しを机の上に出す。

引き出しの中に、残してはいけない物はないか確かめる。

- ・プリント類
- ・鉛筆，消しゴム
- ・ごみ
- ・ハンカチ

整とんできていない場合は，整とんする。

引き出しは机の上に出したままにしておく。



このように，毎日子どもに点検，確認させることが習慣化につながると思います。

留意点

週末には，時間を長めにとって整とんに取り組ませる。

整とんが苦手な子どもには，そばについて一緒に片付けるようにする。



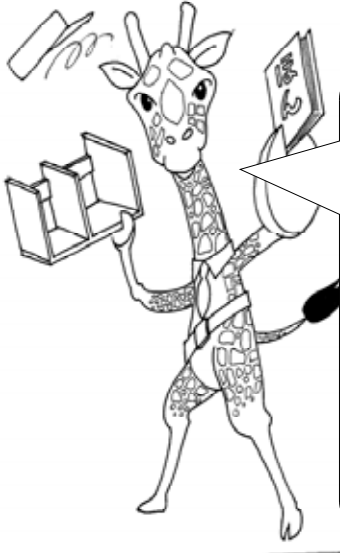
【下校後の子どもたちの机上】

5 キャラクターの活用

話や掲示物などでキャラクターを登場させることで、明るい雰囲気となり、子どもはそれに愛着をもって意欲的に取り組もうとします。教師の話だけよりも意識が高まる効果があるようです。

ここでは、「スッキリン隊長」・「かたづけなサイ」を登場させました。

【スッキリン隊長】



ひきだしをすっきりさせるためにたいせつなことは、

- ・ きめたばしょにおく。
- ・ きれいにならべる。
- ・ えんぴつ、けしゴム、ハンカチ、マスクをちらかさない。
- ・ プリントはプリントばさみの中に入れる。
- ・ ごみを入れない。
(けしゴムのくず、かみくず)

【かたづけなサイ】



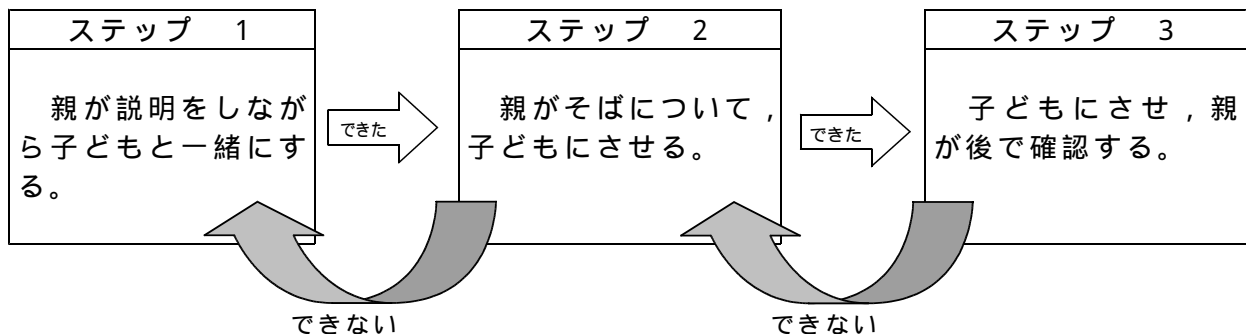
かたづけなさい!

指導を広げるために

1 家庭へのお願い

< 家庭での学習の準備 >

入学してすぐ懇談会や学級通信等で、《子ども任せにしないこと》・《ステップを踏んで身に付けさせること》をお願いします。



ある段階に達していると思っていなくてもきちんとできていない場合は、前の段階に戻って取り組む必要があることも伝えます。

特に、子どもたちが学校生活に随分と慣れた時期になると、保護者の目が離れがちになり、忘れ物が多くなってくることがあります。その際は再度学級通信等で、前の段階に戻って取り組んでもらうことをお願いするとよいでしょう。

< 家庭での「整理整とん」 >

家庭での基本的な生活習慣を図るため、点検カード(よいこのくらし)を準備し、保護者にチェックしてもらうようにします。子どもの実態や時期を考慮して、点検項目の中におうちでの「整理整とん」も入れてみましょう。

4 指導の実際(2) (第1学年)

あいさつ

指導項目の年間計画

		1 学期	2 学期	3 学期
目 標	目	あいさつを返したり，自分からしたりするとき，必ず声に出して言うことができる。		
	標		明るい笑顔で元気にあいさつができる。	
				自分から進んであいさつができる。
指 導 の 手 立 て	学級活動等の実践	道徳の時間 『あいさつはこころのリボン』(こころのノート)を取り扱い，あいさつへの意識を高める。	道徳の時間 『あいさつがきれいなおうさま』を取り扱い，元気にあいさつをしようとする意欲を高める指導をする。	『1日10人の人にあいさつをしよう』のめあてをもたせ，あいさつ運動に取り組みさせる。 毎朝，生活指導で実施している校門での『あいさつ運動』に参加することを呼び掛ける。
	日常的な取り組み	<p>< 朝の会・帰りの会 > 声を出してあいさつを返せた児童を見付けて，朝の会や帰りの会，通信『げんきいちばん』の『今週のげんきっこコーナー』で紹介して称賛する。</p> <p>あいさつがんばりカードを各自持たせ，あいさつへの意識をもって意欲的に取り組ませる。</p> <p>< その他 > 教師自身が，まずはっきりとした声であいさつをする。</p>		
	掲示物の工夫	あいさつポスターを掲示する。 (あかるく・いつもさきに・つづけよう) (あいさつはなまるポスター)	あいさつおうさまのポスターを掲示する。	温かい言葉の「あいうえお」ポスターを掲示する。 (ありがとう・いっしょにやろう・うまいね・えらいね・おいでよ)

道徳の時間での取り組み

主題名 あいさつ【2 - (1)礼儀】

資料名 「あいさつがきれいな王さま」

(出典：『どうとく2年あすをみつめて』日本文教出版)

主題設定の理由

ねらいとする価値について

子どもたちは、地域や家庭、学校の中で、家族や友達、教師と触れ合いながら、よりよい生き方を求めて生活している。しかし、めまぐるしい社会変化に伴い、私生活重視傾向の影響が出てきて、周りの人とのコミュニケーションを取ることや他の人との関係の在り方に潤いが欠けてきていると思われる。このような中での何気ないちょっとした「あいさつ」は、人と人との心を結び付けていくものであり、お互いの心を和ませるものである。そこで、「あいさつ」がお互いの気持ちを明るく楽しくするというところに気付かせ、低学年なりの礼儀作法の意義についても考えさせたい。

児童の実態について

本学級の児童は、学校生活や新しい友達にも慣れ、明るく元気に過ごしている。あいさつに関しては、その必要性は、ほとんどの児童が感じてはいるが、なかなか実践には結び付いていない。2学期に入り、クラスでの友達とのかかわりが密になってきた反面、なれ合いからかあいさつをしなくなったり、あいさつをすることを面倒くさがったりする児童も見受けられるようになった。また、一斉での朝のあいさつや帰りのあいさつなどは元気よくできるが、普段の生活の中では、教師からあいさつをしないとできない児童もいる。

資料の活用について

本資料は、低学年の子どもにも分かりやすい説話である。あいさつの嫌いな王様があいさつを禁止するおふれを出す、その後の国の様子や人々の様子であいさつの意味に気付いておふれを取り消し、その国があいさつと笑い声のあふれる楽しい国になったという話である。クラスの中には、あいさつが互いに心を和ませ、あいさつをすることはいいことだと分かっているが、「はずかしい」と思っている児童もいる。また、友達と遊んだり話したりすることが多くなり、動作や行動も活発になることで「めんどくさい」「別にしなくても…」と思っている児童もいる。それだけに、「めんどくさい」「しなくても…」という王様の気持ちと自分の気持ちを重ね合わせて本音を引き出しやすいと考える。つい自分からあいさつをしたことで、元気よくあいさつをすることの大切さに気付いた王様に共感させることにより、あいさつをすることは気持ちのよいこと、あいさつが周りの人の心を明るくし、自分の心も明るくしてくれる元気の源であるということに気付くことのできる資料である。



指導の観点

本時の指導に当たっては、まず、児童を資料の中に引き込み、話の展開に興味をもたせるために、王様の表情や様子が分かりやすい大型紙芝居を用いて資料提示を行う。また、王様の表情が分かる顔、王様のせりふ、おふれなどを黒板に提示しながら話し合いを進めることにより、王様の心の変化を視覚的にとらえさせたい。表現の場の工夫としては、「あいさつだいすき」の歌を聞いて、「なにかおかしい」と考え込んだ王様の気持ちを役割演技することで、王様の葛藤する気持ちにじっくりと共感させたい。そのことにより、ついあいさつをした王様の心の変化に気付かせ、さらにはあいさつのよさを感じ取らせたい。展開段階では王様への手紙を書くことで自分の振り返りを図り、終末にはあいさつが上手な友達を紹介し、実践への意欲付けとしたい。

ねらい

あいさつは周りの人だけでなく、自分の心も明るくすることを知り、気持ちよくあいさつをしようとする意欲を高める。

本時の展開

学習活動	主な発問()と予想される児童の反応(・)	指導上の留意点
<p>1 あいさつについて考える。</p> <p>2 資料「あいさつがきらいな王さま」(前半)を視聴し、王様の気持ちについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おふれを出したとき ・ 国中が暗くて寂しい国になったとき ・ 牢屋<small>らう</small>から歌が聞こえてきたとき 	<p>主な発問()と予想される児童の反応(・)</p> <p>あいさつはした方がいいかな。また、それはなぜかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ した方がいい 気持ちがいいから 元気が出るから ほめられるから ・ しなくてもいい 面倒くさいから はずかしいから <p>王様は、どんな気持ちからおふれを出したかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日、朝から晩までたくさんの人にあいさつをされてうるさかったから ・ あいさつがなくなってすっきりするから  <p>「おかしい、なにかおかしい」と考え込んだ王様はどんな気持ちだったかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつは、した方がいいかな。しない方がいいのかな。 ・ わしは、あいさつが嫌いだったはずなのに、どうして歌いたくなったのかな。 	<p>指導上の留意点</p> <p>今までの生活を振り返らせることで、資料への意欲を高める。</p> <p>「あいさつはした方がいい」という考えだけでなく、子どもたちの本音の部分も明らかにする。</p> <p>大型紙芝居を使いながら、教師の語り聞かせを行う。</p>  <p>王様の顔とせりふを提示し、王様の気持ちを話の筋にしたがって考えさせる。</p> <p>王冠をかぶって役割演技をすることで、葛藤する王様の気持ちに共感させる。</p> 

うっかりあいさつをしてしまった王様は、
どんな気持ちかな。



- ・ あっ、言ってしまった。
- ・ おふれを出して、悪かったな。
- ・ これからは、あいさつをしよう。
- ・ あいさつは気持ちがいいな。
- ・ わしが、間違っていた。

あいさつは、自分や周りの人の
気持ちをよくさせることに気
付かせる。

3 資料後半の話を
聞く。

今、前みたいにあいさつが嫌いかな。

- ・ あいさつをする王様になってる。
- ・ あいさつが好きな王様に変身してるよ。

あいさつを嫌っていた王様と
今の王様の気持ちの変化を押さ
える。

4 王様へ手紙を
書く。

あいさつが嫌いだった王様に手紙を書こう。
「私はこうするよ」と思ったことがあったら、
王様に教えてあげましょう。

児童の思いを十分に書かせる
ために、時間を確保する。

<児童のワークシートより>

- ・ おうさまは、あいさつがきらいだったけど、すきになったからよかったね。ころがあつたかくなつてよかったね。わたしは、こうするよ。わたしは、あいつさがすきだから、あいさつするよ。
- ・ おうさま、あいさつができるようになってよかったね。わたしだったら、あいさつはいつもするよ。ともだちが、わたしにあいさつをしてくれたらうれしくなるよ。
- ・ おうさま、さいごにあいさつしたのはよかったけど、これからもあいさつをやめたらいけないよ。わたしだったら、いつもあいさつするよ。
- ・ おうさま、わたしだったらこうするよ。きちんとあいさつするよ。だって、あいさつはたいせつなことだから。

5 教師の話を聞く。

あいさつが上手なお友達がいるよ。
先生が、あいさつをされてうれしかったと
きのことを紹介するよ。

学級活動での取り組み

1 学級活動での実践「あいさつはこころのリボン」

(こころのノートを活用pp.32-35)(1学期)

活動内容	指導上の留意点
<p>1 日ごろの自分たちのあいさつの様子を振り返る。</p> <p>2 あいさつをしたとき，されたときの気持ちを発表する。</p>	<p>登校時のあいさつの様子をビデオで見せ振り返らせる。</p> <p>あいさつをしたとき，されたときの気持ちを発表させることにより，あいさつは自分や相手の気持ちを明るくすることができることに気付かせる。</p>
<p>じょうずなあいさつができるようになるう</p>	
<p>3 相手の気持ちを明るくするあいさつの方法を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いつしたらいいか考える。 ・ 2人組でやってみる。 ・ 心のノートを見て話し合ったことと比べてみる。 <p>4 これからどんなあいさつを心掛けていきたいかカードに記入する。</p>	<p>1日の生活を振り返らせ，いつ，どんなあいさつがあるのかを考えさせ，いろいろなあいさつの言葉があることに気付かせる。</p> <p>実際にあいさつをさせながら，声の大きさや視線など相手を明るくさせる上手なあいさつの仕方を見付けさせていく。</p> <p>心のノートの「あいさつはこころのリボン」を見せ，話し合いで出されたことと重なる部分があることに気付かせ，自分たちで考えることができたことを称賛する。</p> <p>「じょうずにあいさつできたかな」のがんばり表を見せ，上手なあいさつをやってみようというきっかけを作る。</p>

日常的な取り組み

1 朝の会や帰りの会での活動

「さよなら！げんきっ子コーナー」

(1～3学期)

<活動の流れ>

- 1 今日一日の中で，あいさつをすることができたか振り返らせます。振り返らせることで，あいさつに対する意識を高めます。
- 2 あいさつができたら，挙手させます。あいさつをできた子は，みんなで称賛します。
- 3 今日の自分のあいさつの様子について「がんばりカード」に記入(シール)します。カードに記入させることによって，明日はもっと頑張ろうという意欲をもたせましょう。

かえりのかい
 いまから、かえりのかいははじめます。
 「はじめます。」
 かかりや とつばんからの おしらせを
 ってください。
 さよなら、げんきっ子コーナーです。
 げんきに あいさつが できたひとは てきよう
 げてください。 あいさつが できたひとは てきよう
 ちよくさんは、 ばとんたっち。 あしたの にっ
 これで かえりのかいは おわります。 さんと
 「おねがいします。」 さんです。
 さいごに、 せんせいの おはなしを ききま
 しょう。 「はい。」

【帰りの会の進行表】

は、さよなら！げんきっ子コーナー

2 『あいさつがんばりカード』『あいさつポスター』

子ども一人一人に『あいさつがんばりカード』を持たせたり，ポスターを教室や廊下に掲示したりして，あいさつに意識をもたせ，意欲的に取り組ませましょう。



【あいさつがんばりカード】



【あいさつポスター】



指導を広げるために

1 通信による家庭との連携

参観日に授業をしたり，学級通信で保護者に呼び掛けたりして，子どもがあいさつをするように家庭にも協力をお願いをしましょう。

原先生から歯磨き指導を
ができるわけと唾液の働
きを見ながら学習しまし
歯磨きをどのようにやる
ことができました。子どもたち
について実際に聞いてみまし
食の後、歯磨きをがんばり
ます。歯磨きががんばりカ
ーです！

9月フリー参観いかがでしたか！

お忙しい中、ご参観いただきありがとうございます。お子さんの様子は、いかがでしたか。

二時間目は、道徳「あいさつがきらいなおうさま」を学習しました。王様の気持ちの変化を考えながら、『あいさつ』について考えていきました。子どもたちは、王様の気持ちに共感しながら、さまざまな考えを発表していました。これを機に、これまでの自分のあいさつに対する考えを振り返り、これからあいさつをしていこうという態度を身につけてくれたらと思っています。あいさつがんばりカードも持たせています。ご家庭でも『あいさつ』について話し合われ、子どもたちがあいさつをしていくよう声かけをしていただけたら助かります。

【「あいさつ」について考えた道徳の授業を紹介した通信の一部】

4 指導の実際(3) (第2学年)

時間を守る

指導項目の年間計画

		1 学期	2 学期	3 学期
目 標		授業始まりの時刻を守る。(チャイムの合図)		
			約束した時刻や時間を守る。 時計を見て(時間を考えて)行動する。	
				規則正しい生活をする。
指 導 の 手 立 て	学級活動等の実践	「ノーチャイムウィーク」を振り返って感想や反省を出し合う。 次の活動の開始時刻を、掲示用の時計を使って、教師が黒板に提示する。	学級活動 「時間を守る」を行い、時間を守る方法を考える。 すごろくのようながんばりカードを準備し、時間を守れたときにはごほうびシールを配る。	道徳の時間 「いのちの時間」を行い、生きる時間のすばらしさを学習する。 「早寝・早起きカード」を作り、家庭での生活を点検させる。
	日常的な取り組み	朝の時間や休み時間にすることを紙に書いて掲示する。	次の活動の開始時刻を掲示用の時計を使って当番の児童に提示させる。	活動に合わせて、必要なとき(特別校時・活動終了時刻)のみ掲示用の時計を提示する。
		<p>登校してからすることの手順を黒板に掲示する。</p> <p>時間の見張り番「チクタクたっくん」をキャラクターとして使う。</p> <p>授業が終わったら、次の学習の準備を行いトイレに行ってから休み時間を過ごすようにさせる。</p> <p>帰りの会では、今日一日を振り返り、時間を守ることができたか拳手をさせ、ほめ合う。</p> <p>学期に2回「ノーチャイムウィーク」を設定し、時間に対する意識を高めさせる。</p> <p>教師自身が、授業の開始・終了時間を守るよう心掛ける。</p>		

学級活動での取り組み

題材名 時間を守る

目標

- (1) 時間の大切さを理解し，どうすれば守ることができるか話し合うことができる。
- (2) 時間を守るための自分のめあてを決定し，実践化への意欲をもつことができる。

本時の展開

活動内容	指導上の留意点 評価
1 これまでの生活を振り返り，時間を守らず友達に迷惑を掛けたことや掛けられたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食を時間内に食べてもらえず片付けができなかった。 ・ 集団登校の時間に集まらず，待たされた。 2 本時のめあてを知る。	事前に学校生活を振り返り，個人で反省したものをグラフにすることで，学級の実態を視覚的に把握させ問題点を見つめさせる。普段の生活を振り返らせることで，時間を守らないと，他の人に迷惑を掛けるということに気付かせるようにする。 アンケートを基に意図的に指名する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> みんなで時間を守るためには，どうしたらいいか考えよう。 </div>	
3 なぜ時間を守れないのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ おしゃべりをして食べているから給食が遅くなる。 ・ 朝起きるのが遅くなり集団登校に遅刻してしまう。 ・ いつまでも遊びに夢中になり授業の始まりに遅れる。 4 どのようにしたら時間を守ることができるのか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 次の時間の準備をしてから遊びに行く。 ・ 学級の時間の見張り番「チクタクたっくん」の時間を係が提示する。 ・ 友達同士声を掛け合う。 ・ 毎日帰りの会でチェックする。 ・ カードを作成する。 	時間が守れないのはなぜか，また，どういう状況のときに時間を守れないのか，具体的な場面を思い出させながら考えさせるために，問題となる場面の写真を提示をする。時間を守れない子に対して厳しい意見が出ることも考えられるので，守れる子，守れない子のどちらの意見も取り上げ，みんなで良くなるための意見を出させるようにする。 学級みんなが時間を守っていくための必要な方法をワークシートに書かせて話し合わせる。時間を守るということは，集団生活を送る上で大切なことで，守れないと人に迷惑を掛けるということをもう一度確認し，方法を考えさせる。 カードについて意見が出ない場合は，教師の方からアイデアを出す。1週間程度区切って取り組ませる。 全校で取り組んでいるノーチャイムウィークについては，これまでの取り組みで良くなったことなどを紹介し，意欲化を図る。
	時間を守る方法について考え，話し合うことができたか。 (発言内容，ワークシート)
5 自分の生活を振り返り「時間を守ること」について思ったことや感じたことを書き，意欲をもつ。	実践カードに自分のめあてを決めて書かせその決めたことを1週間取り組ませる。 時間を守るための自分のめあてを考えることができたか。 (発言内容，ワークシート，実践カード) 家庭にも連絡し，頑張り週間だけでなく，習慣化されるよう，日常指導を心掛ける。

日常的な取り組み

1 朝の時間での実践

2年生になると、学校生活に慣れてきたこともあり、遅刻をしたり、早く登校しているにもかかわらず何もしないまま外に遊びに行ってしまうたり、朝の時間にしないといけないことができない子どもが出てきます。そのため、朝の時間の約束事を再確認し、それを写真付きで毎朝黒板に掲示します。その際「よし! よし! よし! よし! ゴー」と合い言葉を言いながら確認させるようにするとよいでしょう。



① どうぐをいれる

道具を入れる



② れんらくちょうをだす

連絡帳を出す



③ しゅくだいをだす

宿題を出す



④ ランドセルをたなにいれる

ランドセルを棚に入れる

活動内容を視覚的にとらえさせることによって、子どもは、朝の時間に何をしないといけないかを意識します。また、合い言葉を言いながら楽しく準備することができます。

ほとんどの子どもができるようになったら黒板での掲示をやめ、できていない子どもにだけカードにして配り定着を図りましょう。

2 カードの活用

時間を守ることは、毎日の学校生活でとても大切なことです。そのため時間を守ることができたかどうかを自己評価させることが重要となってきます。しかし、毎時間ごとの評価は低学年の子どもにとって難しく、いかに有効にカードを活用するかがポイントとなります。

学級活動の後、期間を1週間に限定し、帰りの会で1日の生活を振り返らせ、時間を守れた子どもには、がんばりカードにシールをはらせます。カードをすこしく形式にしてゴールにたどり着くことをめあてにさせるなどの工夫も考えられます。

「がんばりカード」は振り返って反省を記入し、適宜、家庭へ持ち帰らせることで、子どもの学校での様子を保護者に知らせるだけでなく、家庭においても時間を守ることへの意識の定着が期待できます。その際、保護者に学級便りを通じて事前にこのような取り組みを行っていることを知らせておくことが大切です。また、保護者からの励ましの言葉は今後の意欲へとつながります。

「時間を守る」がんばりカード
なまえ()
めあて
早ね早おきすること。
☆よくまもれたら◎、だいたいまもれたら○、あまりまもれなかったら△をつけましょう。

	早おき (6:00)	とうこう 時間	せしや う時間	あさし よく時間	そうじ 時間	まな (8:55)	めあて
12日 (木)	△	◎	◎	◎	○	△	△
13日 (金)	○	◎	◎	◎	◎	△	○
16日 (月)	○	◎	◎	◎	◎	△	△
17日 (火)	◎	◎	◎	○	○	○	○
18日 (水)	○	◎	○	△	◎	○	○
19日 (木)	△	○	◎	◎	○	◎	△
20日 (金)	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎

<ふりかえってみよう!> いつも早ね早おきが、おそいけど、20日やと、◎だからうれしかったです。これからは◎でいいです。そうじももっとがんばりたいたいです。

☆お家の方より☆
じいさんと、いんち見さんに伝えておきました。おかげで、おそい時間を守ることができました。おはようございます。(◎)

3 必要な時間を知ること

何分でもどれるかなゲーム

休み時間になると子どもたちは校内のいろいろな場所で過ごしています。子どもたちの様子を見ると、チャイムが鳴ってもすぐに教室に戻ろうとせず遊びを続けたり、戻ってはいるもののその行動に時間が掛かったりする子どもがいます。そこで、「何分でもどれるかなゲーム」を行い、教室まで戻るのに必要な時間を理解させます。

場 所	よそうした時間	かかった時間
ぶらんこ（運動場）	5分	1分40秒
てつぼう	3分	1分
たいいくかん	3分	40秒
としょしつ	2分	40秒
トイレ	1分	16秒

予想を立てたら実際に分担し、何分で戻れるか測定します。その際、安全に気を付けて廊下は走らないことや、人を押さないなどの事前指導をします。子どもたちは、予想よりはるかに早く教室に戻れることに驚き、これまでチャイムが鳴ってもすぐに戻ろうとしていなかったことに気付きます。チャイムが鳴っている時間は、思ったよりも長いことに気付きます。教室に戻るために必要な時間を知ることによって、一人一人の意識が変わり、素早い行動を心掛けるようになります。

4 キャラクターの活用



【チクタクたっくんの掲示】

時間の見守り役「チクタクたっくん」

時間の見守り役のキャラクターを「チクタクたっくん」と名付け、子どもに愛着をもたせます。キャラクターは、次第に学級の一員のように意識され、「チクタクたっくんがいつも見ている」という感覚が育っていきます。

チクタクたっくんの下に時計を掲示することで、まだ時刻が十分読めない子どもにもより簡単に授業の開始時刻を知らせることができます。「チャイムが鳴ったよ!」「時間だよ!」ではなく、「チクタクたっくんが呼んでるよ!」と互いに楽しく声を掛け合うことができます。

キャラクターを作ることによって時間に対して親しみをもって意識付けをしていくことができます。

また、時計系の当番を決め、時刻を掲示させようになると、「休み時間は何時までですか?」と聞きに来ていた子どもも、黒板を見ることで安心して行動することができます。休み時間だけでなく、学習中の活動においても「この時刻まで」と意識をもたせることができます。

5 全校的な取り組み

意識付けを図る掲示物



【大型パネルの掲示(生活習慣)】

全児童の目につく所に大型のパネルを設置します。

早ね早おき朝ごはん
みそ汁すって元気いっぱい

パネルの掲示によって、子どもたちはもちろん、来校する保護者も立ち止まって眺める人が多くなります。色鮮やかな大型のパネルは、全校で取り組むという意識付けに役立ちます。

パネルの掲示については、学校便りや学年・学級便りで紹介し、保護者にも意識してもらうように呼び掛けるとよいでしょう。

ノーチャイムウィークの設定

日ごろ、時計よりもチャイムによって動くことが多い子どもたちに時間を意識しながら行動することを意識させる取り組みとして、チャイムを鳴らさないノーチャイムの日を設定します。チャイムで行動することに慣れている子どもたちですから、1日だけの取り組みではなく、1週間などある程度の期間取り組むことが必要です。

最初は、授業の開始時刻になっても教室に戻ってくるできない子どももいますが、徐々に時計を気にして行動する子どもが増えてきます。また、授業の開始時刻が近付いているのに遊びに夢中になっている友達に対して、声を掛ける子どもも見られるようになります。ノーチャイムについては、時計を気にしすぎて行動が制限されてしまう子どももいますので、毎日ではなく、学期に2回程度、1週間という限定した期間に集中して取り組む方が効果的でしょう。

ノーチャイムウィークにおいては、子どもたち以上に教師自身の行動が重要です。授業の開始時刻や終了時刻を守り、時間を大切にすることが子どもたちにもよい影響を及ぼします。

ノーチャイムウィークの取り組みを終えて子どもたちのよくなった点は、以下のとおりです。

- ・ 遊んだ後、チャイムが鳴る日よりも早く教室に戻れるようになった。
- ・ 時計を見て行動できるようになった。
- ・ 時間が前より守れるようになった。



指導を広げるために

1 「時間を守る」に関する道徳の時間の資料

学 年	資 料 名	出 典
1 年生	べんきょうがはじまりますよ	『どうとく 1年』東京書籍
	よりみち	
	どうしてかな	『どうとく 1年』日本文教出版
2 年生	チャイムが鳴ったんだよ	『どうとく 2年』東京書籍
	いろいろなきまり	『どうとく 2年』日本文教出版

2 家庭での生活のリズム

「時間を守る」ことは、学校だけでなく家庭での日々の生活において大変重要なことです。夏休みや冬休みなど長期の休業中には「生活リズム表」を利用し、規則正しい生活を心掛けさせたいものです。

冬休みのくらし
名前()

6:00 12:00 6:00 10:00

おきる時間 ねる時間

めあて

めあてをまもることができたら色をぬりましょう

はんせい

よくまもれた だいたいまもれた まもれなかった

かていより

<留意点>

- ・ 一日の生活時間を決める。起きる時間、寝る時間については、一日の生活のリズムを決めるので必ず決めるようにする。
- ・ 家庭においてどんな時間が一番守れていないか親子で話し合う。
- ・ 守れていないことの中からめあてを決める。

起きる時刻
寝る時刻
勉強する時間
テレビを見る時間
ゲームをする時間
家に帰る時刻
など

- ・ 休業後は、親子で振り返り、めあての反省を行う。

「生活リズム表」は、学校での活動がつながるように学級で使っているキャラクターを登場させたり、学級便り等で事前に保護者へ協力をお願いしたりするとよいでしょう。

4 指導の実際(4) (第2学年)

掃除

指導項目の年間計画

		1 学期	2 学期	3 学期
目 標		自分の担当場所が分かり、担当場所を離れずに掃除をすることができる。	→	
		掃除の手順が分かり、時間を守ることができる。	→	
		掃除道具を正しく扱い、後始末をすることができる。	→	
			口を結んで静かに掃除をすることができる。	→
				素早く動いて、掃除をすることができる。
そうじプロになろう！				
指導	学級活動での実践	<p>「じぶんのところ はきれいきれい」大さくせん 「掃除のじゅんばんひょうづくり」大さくせん 「掃除どうぐマスター」大さくせん</p>	<p>「掃除レベルアップ」大さくせん</p> <ul style="list-style-type: none"> 口を結んでやり遂げるなど、まだまだ不十分な点を取り上げて、クラスみんなで乗り越えるための作戦を考え、実行する。 6年生からアドバイスを受けるイベントを仕組む。 	<p>「すばやく、ピカピカ」大さくせん</p> <ul style="list-style-type: none"> 素早く動いて、きれいに掃除をすることができるようにする。 これまでの作戦で身に付けてきたことを確認し、掃除プロを認定する。(p.31 資料)
手立て	日常的な取り組み	<p>< 月初め > 一人一役の掃除当番表を基に、自分の掃除場所を確認する。 1 か月間は同じ場所の掃除を繰り返し、その場所のプロになるようにする。 場所別にチームを編成し、励まし合いながら取り組む雰囲気をつくる。</p> <p>< 毎回の掃除後の反省会 > 「そうじがんばりカード」を基にして反省する。よかったことや反省点を出し合い確認し合う。(pp.30-31 資料 ~)</p> <p>< 毎日の帰りの会 > 「3分間ゴミ拾い」を継続し、反省に役立てる。</p> <p>< 月終わり > 帰りの会では「掃除大賞」を認め合い、掃除大賞シールを与えて賞賛し合う。 「掃除アドバイス表」を作成させ、それを基にした「アドバイスタイム」を開き、それぞれの場所の掃除の仕方について申し送る時間を設定する。</p>		

学級活動での取り組み

題材名 そうじレベルアップ大作戦をしよう

目標

- (1) 掃除の仕方について振り返り，大作戦の方法について話し合うことができる。
- (2) 大作戦に向けて自分のめあてを書き，掃除を頑張ろうとする意欲をもつことができる。

展開

活動内容	指導上の留意点 評価
<p>1 クラスの掃除について振り返る。 これまで，掃除で取り組んできためあてについて振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の役割を果たし取り組んできた。 ・ 「ピッタリ掃除」をめあてに取り組んできた。 <p>よくなったこと，まだまだ頑張りが足りないこと を考える。 自分の場所を離れずできるようになった。 時間内に終われるようになった。 後片付けがしっかりできるようになった。 まだ，しゃべりながらするときがある。 掃除の順番を考えないでしている。 このままでよいか考える。</p> <p>2 めあてをつかむ。</p>	<p>これまで取り組んできたいろいろな掃除活動について想起させる。 資料を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掃除順番表 ・ ピッタリ・掃除カード(p.30 資料) <p>頑張っている点やまだまだ頑張りが足りない点について明確にする。 頑張っていることは，みんなで拍手をしながら，みんなの成長として認め合う。 頑張りが足りないことは，個人を責めるのではなく，あくまで学級全体のこととして考えさせる。</p> <p>問題点を明らかにし，解決を促すようにゆさぶりを掛ける。</p>
<p>そうじレベルアップ大きくせんをしよう</p>	
<p>3 みんなが，もっと掃除のレベルを上げるための作戦を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おしゃべり0をめあてに入れよう。 ・ もう一度，掃除アドバイス表を作ってみんなで確かめよう。 ・ 6年生に教えてもらおう。 <p>4 実践カードに自分のめあてを書き，掃除プロへの意欲をもつ。</p>	<p>まだまだ頑張りが足りないことを乗り越える作戦になるように考えさせる。 考えが出にくいときは，生活班や掃除のグループで検討させる。 作戦の中で，みんなで取り組んでみたいことを話し合わせて，実践のイメージをもたせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>大作戦に向けて自分の考えをもって話し合うことができる。(行動，発言)</p> </div> <p>実践に向けて意欲付けを図るために，実践カードを用意し，自分のめあてを書かせる。1週間カードで振り返ることを知らせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分のめあてを書き，掃除への意欲をもつことができる。(実践カード内容)</p> </div>

資料 1学期用 「ピッタリ・そうじがんばりカード(個人用)」

	/ 月	/ 火	/ 水	/ 木	/ 金
じぶんのばしょをはなれずに、 そうじができたか。					
そうじのじゅんばんをまもっ て、そうじができたか。					
そうじどうぐを正しくつかっ て、そうじができたか。					
そうじはじめやそうじおわり の時間をまもって、そうじがで きたか。					
(せんせいから)					

～ 6年生との掃除反省会の様子～

6年生は、教室に2名来た。2年生の子どもと一緒に掃除をしながら、掃除の仕方について気付いたことなど、いろいろな声掛けをしていた。学級の子どもは、いつもと違う雰囲気を楽しむかのように、素直に聞いて嬉しそうに取り組んでいた。

掃除の後は、毎回「反省会」を設定した。6年生からは、みんなが「掃除プロ」になるために、よかったこと()、もう少し頑張りたいこと()を柱に、気づきや感想を言ってもらった。

取り掛かりが早くていい。

全員、口を結んでよく掃除をしていたので感心した。

いつも、時間内に終わるのがとてもよい。

後始末までしっかりできている。

もう少し、早く動けると更によい。

(3学期のめあて・「素早く動いて掃除をしよう」へつなげる)
反省会の後、黒板の前の「ピッタリ・そうじがんばりカード」(資料)に6年生が結果を記録するときは、人だかりができた。みんな結果が気になるらしい。

すべての項目に が付くと、一斉に歓声が上がった。達成感や達成感を味わうことができた瞬間であった。達成感や達成感を味わわせるところまで指導していくことはとても大切であることを実感した。

今回、来た6年生の一人が、運動会のときの、同じ組の団長だったこともあり、6年生のアドバイスに親しみ深く聞き入り、よりよい掃除になるように取り入れていく姿がとても印象に残った。



【反省会の様子】



【お礼を言う2年生】

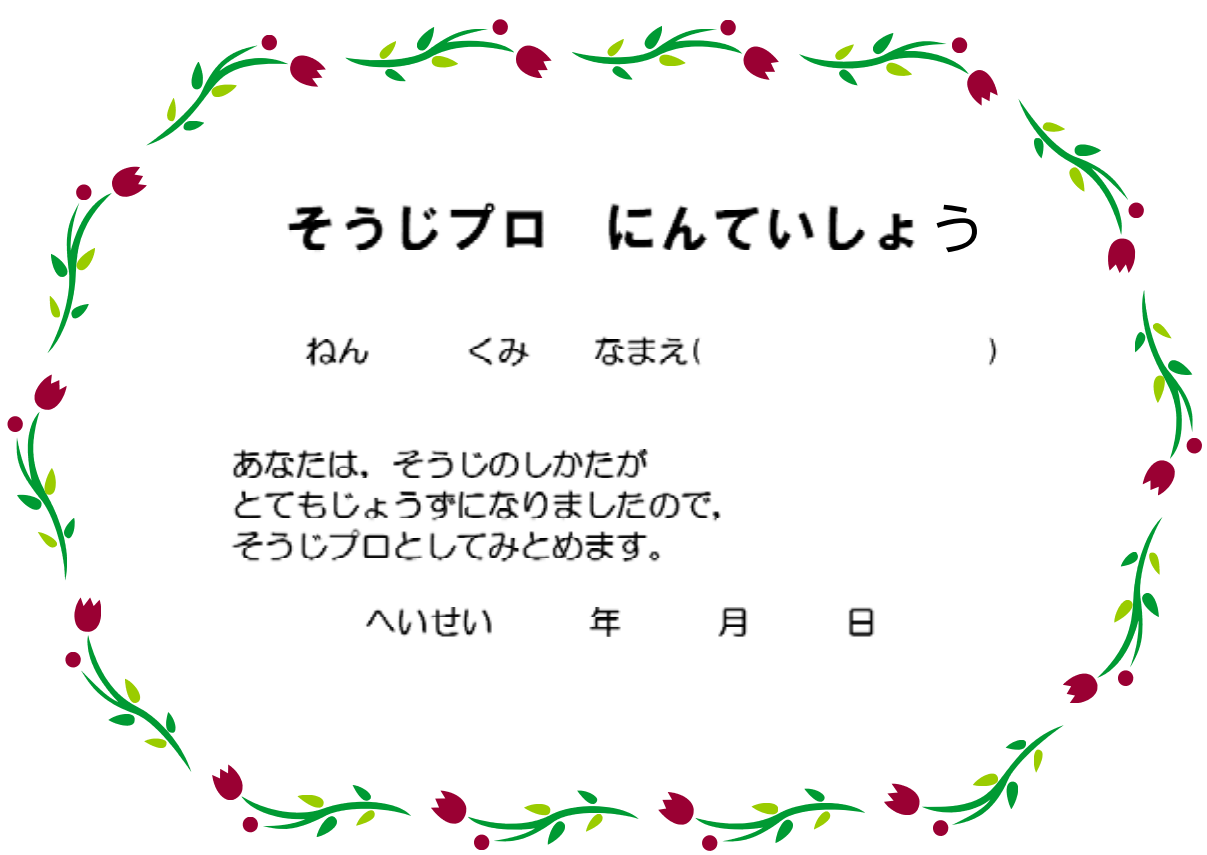
資料 2学期用 「ピッタリ・そうじがんばりカード(クラス用)」

	/ 月	/ 火	/ 水	/ 木	/ 金
とりかかりはよかったか。					
口をむすんでできたか。					
時間内におわることができ たか。					
後しまつは、きちんとでき たか。					
(6年生から)					

資料 3学期用 「すばやく、きびきび そうじプロ がんばりカード(個人用)」

	/ 月	/ 火	/ 水	/ 木	/ 金
とりかかりの時間をまもって、そうじができたか。					
自分のばしょをはなれずに、そうじができたか。					
そうじのじゅんばんをまもって、そうじができたか。					
そうじどうぐを正しくつかって、そうじができたか。					
口をむすんで、そうじができたか。					
すばやく、きびきび動いて、そうじができたか。					
あとしまつは、きちんとできたか。					
おわりの時間をまもって、そうじができたか。					
できた できなかった × いっしゅうかん、すべて で きみは そうじプロ！ 「にんていしょ」をゲットしよう。					

資料 そうじプロ 認定証



そうじプロ にんていしょう

ねん くみ なまえ()

あなたは、そうじのしかたが
とてもしょうずになりましたので、
そうじプロとしてみとめます。

へいせい 年 月 日

日常的な取り組み

1 「そうじアドバイスタイム」の設定と継続

活動の流れ

1 一人一役の掃除担当場所ごとに分かれる。

エクセル等の表計算ソフトを使って作成するとよい。クラスで受け持った各掃除場所ごとに仕事の内容を細分化し、どの子にも一人ずつはっきりとした掃除内容を示し、役割と責任を明確にする。

月終わりに、当番名のみ数名分ずつスライドさせながら当番の変更を行っていく。

当番を月別にするのは、低学年の子どもには1週間程度では、なかなか掃除の仕方が定着しにくいこと、掃除の仕方に慣れ、成就感や達成感を味わわせにくいことなどが挙げられる。

慣れてくれば、月別ではなく2週間程度で当番を交替していてもよい。

2 それぞれ前の掃除場所の掃除の仕方について話し合う。

3 「そうじアドバイス表」を作成する。



まず、掃除の順番を確かめるよ。それから、気を付けることなどのアドバイスも書いておこうね。

4 次の月の掃除担当者に掃除アドバイス表を送る。【掃除アドバイスタイム】



ぼくたちが、これまで頑張ってきた場所です。アドバイスを見て、上手に掃除をしてね。

5 新しい掃除場所のアドバイス表を確認し合う。

留意点など

一人一役の担当を明確にしておく。

2年3組 そうじとうばんひょう【10月】		
はしよ	しごと	とうばん
きょうしつ	「そうじき」で、ゆかのごみをぜんぶすいとる。	
	ごみがすいとりやすいように「そうじき」をうごかしていき。	
	ごみはこのまわりをきれいにして、ごみをまとめる。すてる。	
	くつばんをそうきんできれいにすく。みぞもきれいにすく。	
	つくえのうえをそうきんできれいにすく。	
	てーぶるのうえをそうきんできれいにすく。	
	かなのつえをそうきんできれいにすく。	
	ろっかーのなかをそうきんできれいにすく。	
	「みにほうき」で、ごみをきれいにすく。つくえといすをはこぶ。	
	「みにほうき」で、ごみをきれいにすく。つくえといすをはこぶ。	
んべら	ゆかのごみを集めて、すく。	
	ゆかのごみを集めて、すく。	
	ゆかのごみを集めて、すく。	
	ゆかのごみを集めて、すく。	
	ゆかのごみを集めて、すく。	
	ゆかのごみを集めて、すく。	
	ゆかのごみを集めて、すく。	
	ゆかのごみを集めて、すく。	
	ゆかのごみを集めて、すく。	
	ゆかのごみを集めて、すく。	

これまでの掃除の仕方についての気付きを自由に出させる。

作成の時間を保障し、掃除の順番だけではなく、気を付けることやアドバイスを書き加えるようにする。

そうじ アドバイス表

はしよ【きょうしつ・テーブル】

○チームのお友だち
○○○○○, ○○○○○○○

★そうじのじゅんばん

①オルガンの上をすく。水とうをオルガンの上につめておいて、水とうのあるつくえの上をすく。②先生のつくえのつくえの上をすく。③机のわきをすくつくえもすく。④本が置いてあるところをすく。⑤あとがたずけはきれいにあらって、きれいに乾かす。そのときに、せたくは「さみご」とめる

★ここに気を付けて そうじをがんばってね。

- きれいにすく。
- きまがなはうにすく。
- そうじは2回たすく。

次の担当者へ、それぞれの思いをそえて手渡すようにさせる。

アドバイス表を作成する時間がなかなかとれない場合は、アドバイス表を作成する時間を省き、話し言葉によるアドバイスタイムにすることもできる。

担当場所を責任をもってやり遂げることができるように励ます。


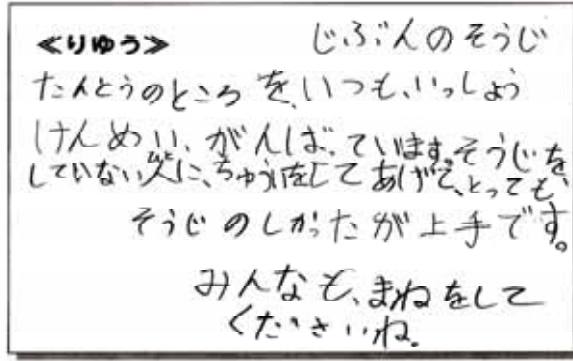
2 帰りの会での活動「3分間ゴミ拾い」(毎日の設定)

活動の流れ	留意点など
1 自分の担当場所を設定した「3分間ゴミ拾い」をする。	毎日の帰りの会のプログラムの中に「3分間ゴミ拾い」を位置付けて継続して行わせる。
2 集めたゴミは、まとめてゴミ箱に捨てる。	学期の重点的なめあてを意識させる。
めあて：自分の持ち場をしっかりと・・・口を結んで・・・素早く動いて・・・ など	
3 手洗いに行く。(石けんで洗う)	毎回の活動の中で、よく頑張っている子や全体的な向上について称賛する。
4 教師の感想を聞く。	

【子どもの励みになるように「3分間ゴミ拾い」を家庭に知らせた通信】

たいよう 太陽 18	市立 小学校 2年3組 2006.6.2	毎日の帰りの会でも、「3分間ゴミ拾い」をつくって取り組んでいます。 例えば、一人20個拾うと……先生まで入れると35人いますので、約700個のゴミが教室から消えることになりますね。すごいと思います。これだけに限らず、一人ではとても大変なことでも、みんなで力を合わせれば簡単にできることなどいろいろと気付いてほしいと願っています。やっぱり、みんなの力ってすごいんだなあという実感とみんなで力を合わせることのよさを、これからもどンドン感じてほしいと願っています。
「3分間ゴミ拾い」をよくがんばっています。 昨日は、2年生でプールまわりの草取りをしました。「口をむすんで、いっぱい草をとろう」という【めあて】で取り組ませましたが、とてもよくがんばる子が多くてびっくりしました。最近、掃除の仕方もういぶんよくなってきていたので嬉しい成長ぶりです。日々の掃除の時間も「無言掃除」が学校のお約束になっていますので、口ではなく、体を一生懸命に動かしてみんなできれいにしています。		

3 帰りの会での活動「そうじ大賞をあげよう」(月1回の設定)

そうじ 大賞 おすすめカード 10月31日 火曜日 名前() ぼくは、わたしは、 【()さん】を そうじ大賞にすすめます。		<活動の流れ> 1か月間の中で、特によく毎日の掃除やゴミ拾いを頑張っていたと思う友達の名前を「そうじ大賞おすすめカード」に書かせます。頑張りの様子や理由まで書かせるようにしましょう。 「そうじ大賞おすすめカード」は、掃除大賞チームの子どもに休み時間を利用して集計させます。掃除大賞チームは輪番制にするとういでしょう。 次の日の帰りの会で掃除大賞チームから、大賞を発表させ、みんなで称賛し合います。
		
【そうじ大賞おすすめカード】		

4 指導の実際(5) (第1学年)

友達づくり

指導項目の年間計画

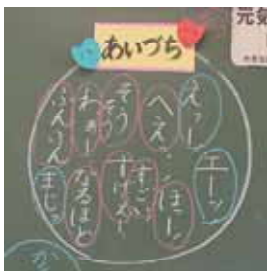
目 標	1 学期	2 学期	3 学期	
		自分の頑張りを見付けることができる。		
		進んで友達とかかわることができる。		
			友達のよいところを認めてだれとでも仲良くできる。	
指 導 の 手 立 て	<p>* 学校は楽しいぞ！</p> <p>構成的グループエンカウンターによる人間関係づくり(学校・先生・友達に慣れる)</p> <p>集団遊び 「じゃんけん列車」 「エイゴおに」 「じゃんけんゲーム・手遊び」 「ふわふわことば・ちくちくことば」</p> <p>当番活動をしよう 日直, 給食, 掃除</p>	<p>* 年 組はおもしろい！</p> <p>構成的グループエンカウンターによる人間関係づくり (友達とのつながり)</p> <p>ソーシャルスキルトレーニングによる演習 「あいさつリレー」 「そうだねゲーム」 「いっしょにあそぼう」 「なかまにいれて」 「ごめんね」</p> <p>係活動, 道徳の充実 「みんなであそぼうタイム」 「かめさんありがとう」</p>	<p>* みんなやさしいね。ありがとう金メダル！</p> <p>構成的グループエンカウンターによる人間関係づくり(自分の成長を確かめる)</p> <p>ソーシャルスキルトレーニングによる演習</p> <p>学級活動の充実 「みんなに 名人をおくろう！」 「友だちのいいところ見つけ」 「みんなちがってみんないい」</p>	
	調 査	Q - Uアンケート (6月実施)		Q - Uアンケート (2月実施予定)
	日 常 的 な 取 り 組 み	<p>帰りの会「今日のキラリ！」で自分の頑張りや嬉しかったこと, 友達からの声掛けやしてもらってうれしかったこと, 友達の頑張りやよいところを見付けて発表する。</p> <p>帰りの会の中のお楽しみコーナー「なかよしタイム」でみんなと楽しむ。</p> <p>毎週金曜日の昼休み, 「みんなで遊ぼうタイム」で楽しむ。</p>		

学級活動での取り組み

題材名 そうだね ゲーム

目標 受容的に話を聞いてもらう心地よさを体験することで、その大切さを理解する。

本時の展開

活動内容	主な発問と指示	指導上の留意点
<p>1 本時の学習の“あいづち”を知り、気持ちの良くなるものを考える。</p> <p>「うんうん」 「なるほど」 「ふ～ん」等</p> 	<p>今からある会話を聞きましょう。どうでしたか？話をしている相手に「ヘエ～」「ほんとに？」など、返事をしていましたね。このことを“あいづち”と言います。</p> <p>みなさんは、ほかにどんな“あいづち”を知っていますか？</p> <p>この中で、話をしている人が気持ちよくなる“あいづち”はどれでしょう？</p> <p>友達の話を聞くためには、相手の気持ちを考えて上手にあいづちを打つことが大切です。今日は、あいづちが上手に使えるようにゲームで練習します。</p>	<p>日常会話を録音したものを聞かせ、よい返答と悪い返答の比較から問題点を考えさせる。(録音テープ)</p> <p>気持ちの良くなるあいづちと、そうでないものに分けさせる。</p> <p>気持ちの込め方によって異なることにも気付かせたい。</p>

「そうだね ゲーム」で ききかためいじんになろう！

- 2 「そうだねゲーム」をする。
- ・ ペアです。
 - ・ 交代です。

初めに並んでいる2人でペアになって向かい合います。まず右側の方は、教室にある物を指差して「これは だね」と話し掛けます。すると、左側の方は指をさされた方を見て「そうだね」と答えます。ただ「そうだね」と言うだけで他のことはしません。

右側の方は、先生がストップと言うまで何でもよいので、教室にあるものを指差して「これは だね」と続けてください。

何だか教室中がにこやかになってきましたね。今度は、話を聞く方は、指をさされた方を見てうなずきながら「そうだね」と言ってみましょう。

はい、そこまでです。相手の気持ちを考えて話を聞いてあげると教室中が明るくなりましたね。たくさんの人たちが相手の顔を見ながらうなずいていましたよ。また、さんやさんのように笑顔でうなずいている人もいました。すごいですね。

掲示物を準備し、ゲームのやり方を説明する。



急がなくてもよいが、なるべくたくさん話し掛けるように伝える。

1～2分、子どもの反応が少なくなってきたところで交代させる。

子どもの様子や、教室の雰囲気をとらえ、笑顔でうなずいているか見守る。

子どもたちの具体的な様子から、獲得目標となるスキルを紹介する。

- ・ 「相手の目を見て聞く」
- ・ 「うなずきながら聞く」
- ・ 「笑顔で聞く」

などのカードを用意しておき、感想を聞きながら黒板にはり出す。



- ・なんだかうれしくなった。
- ・にぎやかになってたのしかった。
- ・ところがほんわかになった。
- ・やさしいきもちになった。
- ・きもちがよくなった。
- ・たいせつにされている感じがした。
- ・おもしろかった。
- ・えがおになった。

3 本時の活動を振り返る。

「そうだね」と答えてもらっているときどんな気持ちがありましたか。何人かの人に発表してもらいたいと思います。

相手の気持ちになって、あいづちを打ったり、笑顔で聞いたり、うなずきながら最後まで聞くことで教室を和やかにすることができます。友達とお互い良い気持ちになってなかよしにもなれます。普段どんな聞き方をしているのか、注意して生活してみましょう。

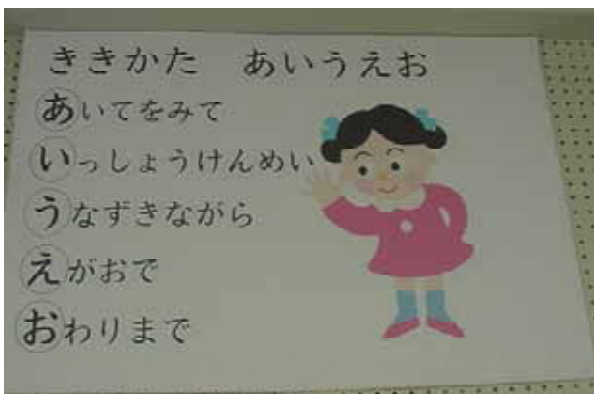
頑張りカードに自分のめあてを書きましょう。

うなずいて聞いてもらう、あいづちを入れて聞いてもらう、笑顔で聞いてもらう、最後まで聞いてもらうなどの体験をしたときの気持ちを振り返らせる。

日常的に学習の場や生活の場において使っていくことを確認するために、学習室の前に「聞き方あいうえお」を掲示する。

頑張りカードを配布し、1週間続けて行うことを知らせる。

相手の気持ちを考えた話の聞き方であることを確認し、「聞き方あいうえお」を読み合って終わる。



【「聞き方あいうえお」の掲示物】

ききかた めいじんに なるう！
(名前 _____)

月	火	水	木	金
×	×	×	×	×

ぼく、わたしは

 を がんばります。

【がんばりカード】

日常的な取り組み

朝の会や帰りの会が、友達へのかかわりの一歩と考え、気分づくり・声出し・あいさつ・返事などが、自然に楽しくできるように日直とみんなの掛け合いやそれぞれの係が活躍する場面をできるだけ多く取り入れましょう。

1 朝の会(例)

朝の会の流れ

< 8 : 1 0 >

「今から朝の会を始めます。」

1 歌係さん, お願いします。(はい)

「元気に を歌いましょう。」
(ありがとうございました。)

2 黒板消し係さん, お願いします。(はい)

「今日は 月 日 曜日です。」
「今日も一日元気に仲良く過ごしましょう。」
「はい, 頑張ります。」

3 元気に朝のあいさつ。

「おはようございます。」

4 聞き方「あいうえお」

5 「 先生(保健係さん), 健康観察をお願いします。

「 さん。」「はい, 元気です。」
「はい, ちょっと です。」

< 8 : 2 0 >

「これで朝の会を終わります。」
「おわります。」

* スキルアップタイムの準備をしてください。

スキルアップタイム(例)

8 : 2 0 1 準備(口の開け方, 姿勢)

2 口の体操・早口言葉・既習教材

- ・ アエイウエオアオ
- ・ 五十音他

8 : 2 5 3 音読(音読教材より)
例「こんなときにはこう言おう」

(方法)

- ・ 範読
- ・ 二人読み
- ・ 素読
- ・ 役割読み

4 自己評価(カード記入)

- ・ 姿勢
- ・ 口の開け方
- ・ 暗唱
- ・ リズムよく

5 教師評価

- ・ 頑張っていた子の紹介
- ・ みんなの前での発表と聞き合い
- ・ 児童の感想発表

8 : 3 5 6 後片付け(次の時間の準備)

スキルアップタイム音読資料例 ~ 「こんなときにはこう言おう」 ~

あそぼう
「ちゃん、きょう
いつしよに あそぼう。」
あそべないの
「くん、きょう
いつしよに あそぼう。」
「ごめんね。きょうは、
サッカー教室があるから
あそべないの。」
あしたなら あそべるよ。
あした いつしよに
あそんでね。」
「トイレにいきたいとき
先生、トイレに
いつてきます。」
「ちようしがわるいとき
先生、 がいたく
なつてしまいました。」
「おれいをいうとき
「ありがとうございます。」
「わすれものをしたとき
先生、ごめんなさい。
をわすれてしまい
ました。かしてくださ
い。」
「ものをかりたとき
先生、ありがとうございます
いました。わすれない
ようにきをつけます。」

2 帰りの会(例)

帰りの会の流れ

「今から、帰りの会を始めます。」

- 1 環境係さん，環境チェックをお願いします。
(はい)
(ありがとうございました。)
- 2 黒板消し係さん，お願いします。(はい)
「明日は，月 日 曜日です。」
「明日も元気に学校に来てください。」
「はい，頑張ります！」
- 3 時間割係さん，お願いします。(はい)
「明日の時間割は，()
です。」
「今日の宿題は，()です。」
「忘れ物をしないようにしてください。」
- 4 給食係さんお願いします。(はい)
「明日の献立は， です。お楽しみに。」
- 5 「今日のキラリ！」はありませんか。
- 6 < 1の1なかよしタイム >
「今日のなかよしは，，()です。」
「 係さんお願いします。」
- 7 明日の日直は さんと さんです。
「よろしくお願いします。」
- 8 これで、帰りの会を終わります。
* 先生お話をお願いします。(はい)
- 9 「元気に帰りのあいさつ。」
「さようなら」

各係が活躍する機会を多く与える。

* 「今日のキラリ」をはっぴょうしてく
ださい」
(はい)

< 1 学期 >

- ・ わたしは，さんすうとなかよしそうじ
をがんばりました。
- ・ さんとサッカーをしたのしかっ
たです。
- ・ せんせいに，「お」のじがじょうずと
ほめられてうれしかったです。など

< 2 学期 >

- ・ さんが，「いっしょにあそぼう」
といってくれたのがうれしかったです。
- ・ さんが，トイレのスリッパをなら
べていました。やさしいなおもいまし
た。
- ・ さんが，たけうまで18ほあるけ
たのがすごいとおもいました。
- ・ さんが，さんすうのじかん「がん
ばれ」といってくれたのがうれしかった
です。ゆうきができました。
- ・ さんが，「だいじょうぶ？ほけん
しつにいこう」といつてつれていつてく
れたから，うれしかったです。
- ・ みんなであそぼうの「どろじゅん」が
おもしろかったです。やっぱり，みんな
であそぶとたのしいです。
おたのしみかかりさん「ありがとう。」
など

1日を笑顔で楽しく終わらせ、明日への期待につなげたいという担任の思いから、日替わりでお楽しみコーナーを設け、係で分担して楽しむ。

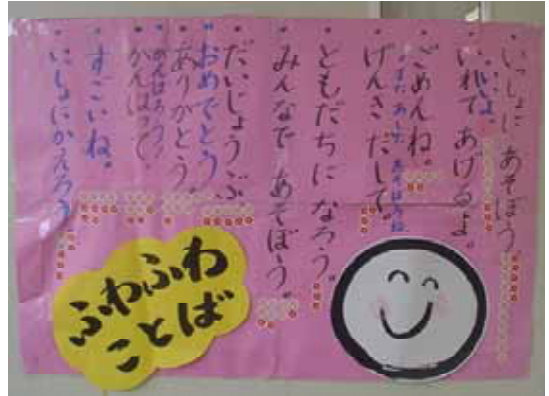
	月	火	水	木	金
係	歌係	日直	クイズ係	お楽しみ係	先生
内 容	うた	ゲーム	クイズ	ダンス	絵本・紙芝居
	校歌 ----- 今月の歌 運動会応援の歌な ど	しりとりチャッピー じゃんけん列車 他	なぞなぞ・クイズの 本より出題	アイーダアイダ ハグしちゃお	じゅげむ 他 あらしのよるシリー ズ

3 ふわふわ言葉を集めよう

「ふわふわ言葉」を使ったときはふわふわ言葉の掲示物に言葉を書き加えたり、シールをはったりするようにします。

<ふわふわことばの例>

- ・ ごめんね
- ・ 元気出して
- ・ 入れてあげるよ
- ・ みんなであそぼう
- ・ 一緒に帰ろう など

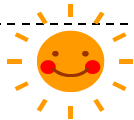


4 みんなで遊ぼうタイム(例)

毎週金曜日の昼休み「お楽しみ係」を中心に担任も入ってみんなで外や体育館で遊びます。

晴れの日

- ・ 遊具遊び
- ・ いろつきおに
- ・ エイゴおに
- ・ リレー
- ・ ドッジボール
- ・ こおりおに



雨の日

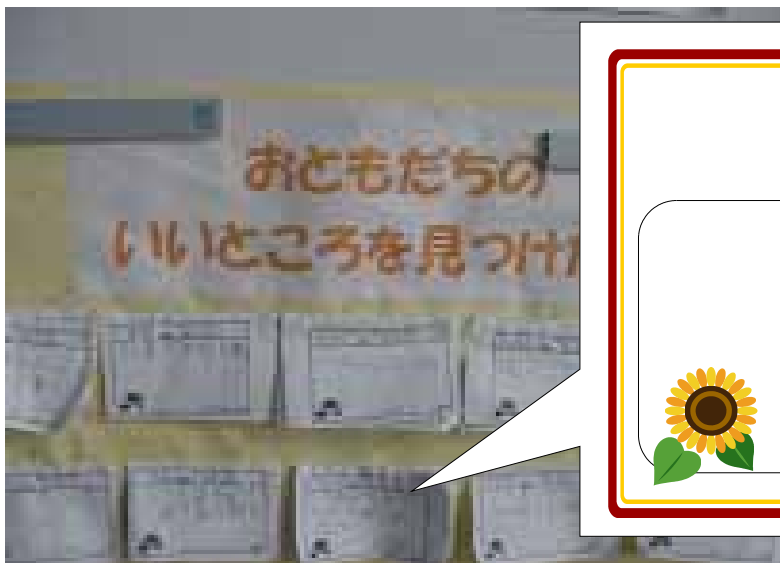
- ・ ハンカチおとし
- ・ フルーツバスケット
- ・ いすとりゲーム
- ・ はないちもんめ
- ・ だるまさんがころんだ
- ・ じゃんけん列車



5 友達のいいところ見付け

2学期に学級活動で行った「あいさつリレー」から、子どもたちの活動が友達のいいところ見付けに広がりました。

友達のいいところを書いたカードを教室の壁面に掲示したり、学年便りや学級通信で活動の様子や子どもたちの感想などを伝えたりすると子どもの励みにもなります。



さん のいいところを見つけたよ!



より

4 指導の実際(6) (第1学年)

聞く・話す

指導項目の年間計画

学期	1 学期	2 学期	3 学期
目	<p>話を聞くときの構えができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を見て聞く ・ 最後まで聞く ・ 姿勢よく聞く 	<p>話していることをしっかりと聞き取ることができる。</p>	<p>聞き取ったことからつなぐことができる。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・ うなずきながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞いたことを確かめる。
標	<p>話すときの構えができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き手の方を見て話す。 ・ 相手の話が終わってから話す意思表示(挙手)をする。 ・ 指名を受けてから話す。 ・ 話すときは立って話す。 	<p>正しい言葉遣いで、順序を考えて話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き手が自分の方を見てから話し始める。 ・ 「です。」「ます。」をつけて話す。 ・ 話型の例示を見ながら順序よく話す。 	<p>したことや見たことに加え、気持ち(思ったことや感じたことなど)を話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話の最後に気持ちを話す。 ・ 友達の話について、思ったことを話す。(質問や感想を言う)
指導の	<p>「あいうえおのうた」</p> <p>描かれている絵と言葉をつないでことば遊びの詩をリズムに乗って音読する。 口形や音節に注意して母音を含む語を発する。</p>	<p>「『楽しかったよ夏休み』クイズ大会」</p> <p>夏休み中の出来事を絵と文で表現する。 絵と文を仕上げて発表し、友達の発表を聞いて質問をする。</p>	<p>「『冬休みこんなことしたよ』クイズ大会」</p> <p>冬休み中の出来事を絵と文で紹介し、思ったことを伝える。 友達の発表を聞き、質問や感想を伝え合う。</p>
	<p>朝の会でミニスキルトレーニング</p> <p>「口ぱくクイズ1」 「目と目でぴったんこ」 「『はい』と『いいえ』」</p>	<p>「口ぱくクイズ2」 「話を聞いて ×クイズ」 「わたしはだれでしょう」 「並び替えスピーチ」</p>	<p>「口ぱくクイズ3」 「おうむになっちゃった」 「気分です」</p>
手立	<p>帰りの会で話そう</p> <p>「きょうのふりかえり」を一人一言ずつ話す。(日直以外の児童)</p> <p>「日直のスピーチ」で3文程度を話す。(日直)</p>		<p>「きょうのふりかえり」を一人3文程度ずつ話し「日直のスピーチ」で質問をする。(日直以外の児童)</p> <p>「日直のスピーチ」で5文程度を話し、質問に答える。(日直)</p>

国語科での取り組み


1 単元 「楽しかったよ夏休み」クイズ大会 ～ 良い話し方・聞き方を身に付けよう～

2 本時の目標

夏休みの思い出を「です。」「ます。」を使って話したりクイズを出したりすることができる。 (話すこと)

話す友達を見て、話やクイズを姿勢良くうなずきながら最後まで聞くことができる。 (聞くこと)

3 展開

過程	学習活動	指導上の留意点
導 入 / 展 開 / 終 末	1 聞き方・話し方の約束を確かめる。	聞き方・話し方の約束を掲示し、確かめるようにする。 話し方の掲示は後方に、聞き方の掲示は前方に掲示し、発表会中も目に触れるようにする。
	はっきりはなして しっかりきこう	
	2 「たのしかったよ夏休み」クイズ大会をする。 	発表の順序は前もって決めておき、心の準備をさせるようにする。 発表の途中にクイズを入れさせ、楽しい雰囲気づくりや、聞き手の聞く意欲付けを図る。 発表後「質問タイム」(あれば感想も)を設け、先着2名程度ずつ言うようにする。この際、聞き手側の文末表現については、聞くことに集中させるためにあえて指導はしない。
	3 聞き方・話し方を振り返る。	自己評価カードを使い、聞き方・話し方について振り返るようにする。
	4 クイズ大会の感想を言う。	友達の発表や自己評価カードを基に、聞き方や話し方について思ったことや考えたことを言うようにする。

4 本時の学習で使用した資料(発表で使用した児童の絵とワークシート)

図画工作科と関連を図り、作成した絵の裏にワークシートをはり付けて発表する。



「たのしかったよ なつやすみクイズ」めも

だい えいがをみにいったこと

したこと や みたこと
(くわしく おしえてね)

1 ぼくは わたしは なつやすみえいがをみました

2 こいちゃんと こいちゃんをみた

3 いきました。 のこりにいきました。

「こいで いきなり」「くちぱくくいず」

○ もじです。 いいますよ。 です。

せいかいは みたえいがは うみのおうじまなふいです。 たのしいおはなしでした。

5 国語の学習から日常化(習慣化)を図る手立て

日ごろから聞き方・話し方の約束やポイントを掲示し、機会ごとに(各教科・領域での指導で)確認しながら日常化を図るようにします。

また、遊びの感覚を取り入れた聞く・話すトレーニング活動、話す事柄の事前準備、話し方のパターン(話型)を提示するようにしておくといよいでしょう。

日常的な取り組み

1 朝の時間での「口ぱくクイズ1」の実践(1学期)

活動の流れ	留意点など
<p>1 話し方と聞き方の約束を確かめる。</p> <div data-bbox="188 770 660 1070" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>話し方の約束</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き手の方を見て話す <p>聞き方の約束</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を見て聞く ・ 最後まで聞く ・ 姿勢良く聞く </div> <p>2 教師の例を聞く。</p> <p>3 順番に「口ぱくクイズ」をする。</p>	<p>話すときは話型を提示し、それを見ながら言うようにする。</p> <div data-bbox="746 712 1398 1128" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>話型</p> </div> <p>聞くときの約束を確かめる。</p> <p>手本を見せることで話す・聞く意欲を高める。</p> <p>話し方や聞き方、クイズの内容についてのコメントをし、話す・聞く意欲の継続を図る。</p>

2学期は「口ぱくクイズ」に加え、関連する話をさせるようにします。(「口ぱくクイズ2」)

また、3学期は、さらに「お尋ねコーナー」を加えます。(「口ぱくクイズ3」)

「口ぱくクイズ2」の具体例

「口ぱくクイズ～！」 「イエーイ！」
 「3文字です。言いますよ」 「はい。」
 ～中略～
 「正解を言います。正解は『う・な・ぎ』
 です。ぼくは、きのう、ウナギを食べま
 した。お父さんとお兄ちゃんとぼくと妹
 で食べました。おいしかったです。」



【口ぱくクイズの様子】

2 朝の時間での聞く・話すミニゲーム例

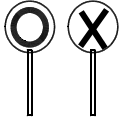
目と目でびったんこ

ねらい	最後まで目をそらさずに話を聞く	
	活動の流れ	留意点など
	<ol style="list-style-type: none"> 1 ゲームの約束を確かめる。 教師：「目と目でびったんこ！」 児童：「はい。始まるよ！」 2 教師の話を書く。 ・ 話の途中でよそ見をしたら「さんアウト！」と教師が言い、アウトの児童はいすに座る。 ・ 話が終わって最後まで目をそらさずに聞くことができたならシール。 3 再挑戦し、教師の話を書く。 	<p>教師が話をする。最後まで聞くことができたなら「びったんこ賞」でシールをあげる。話をしていく途中でよそ見をしたら「アウト」。しかし、「アウト」になっても、再挑戦できるようにする。</p> <p>4月当初は短い文(3文程度)から始め、少しずつ長くしていく。</p> <p>できるだけ全員がしっかり向いて聞くことができたということを実感させるようにする。</p>

「はい」と「いいえ」

ねらい	言葉をはっきり発する	
	活動の流れ	留意点など
	<ol style="list-style-type: none"> 1 ゲームの約束を確かめる。 2 質問に答える。 Q「バナナは好きですか？」 A「はい。」 Q「ピーマンは嫌いですか？」 A「いいえ。」 	<p>質問されたら「はい」か「いいえ」をはっきり答える。</p> <p>4月当初は、教師が質問していくが、次第に、生活班や座席順ごとに質問者と回答者を決めて子ども同士でゲームをするようにする。</p>

話を聞いて ×クイズ

ねらい	話の内容をしっかりと聞く	
	活動の流れ	留意点など
	<ol style="list-style-type: none"> 1 ゲームの約束を確かめる。 2 教師の話を書く。 3 ×クイズに答える。 教師「では、1問目。きこりが斧を落としたのは、広い海である。ですか×ですか？」 児童「～」「×～」 教師「正解は……」 	<p>教師の話を書いた後でクイズがあることを知らせる。</p> <p>本の読み語りをする。</p> <p>と×のついたペープサートを用意し、教師のクイズに答えさせるようにする。(クイズは話の内容から出す。)</p> <div style="text-align: right;">  </div>

わたしはだれでしょう

ねらい	話の内容をしっかりと聞く	
	活動の流れ	留意点など
	<ol style="list-style-type: none"> 1 ゲームの約束を確かめる。 2 ゲームをする。 ヒント1「体は、白い色をしていることが多いです。」 ヒント2「体はすごく柔らかいです。」 ヒント3「私は食べ物です。」 	<p>ヒントを出していき、分かったら答えることを知らせる。もし間違えたら、「お手つき」で1回休みというルールも確認する。</p> <p>ヒントは最後まで聞いて手を挙げるという約束をする。</p> <p>数名挙げた場合は、手が挙げた順に指名する。</p> <p>必ず、出題者(最初のうちは教師がする)が正解を最後にはっきりと伝えるようにする。</p>

並べ替えスピーチ

ねらい	順序を考えて話す	
	活動の流れ	留意点など
	<ol style="list-style-type: none"> 1 あらかじめ、3～4文程度の作文を1文ずつに分けて書いたカードを用意しておく。 2 相手からカードをもらい、順序を並べ替えて話す。 	<p>2人組とする。</p> <p>作文は、絵日記や、これまで書いた作文の中から選ぶようにする。(指導が入ったもの)</p> <p>できるだけカードを見ないで、順序よく話すようにする。元の文と合えば正解。</p> <p>終わったら交代する。</p>

おうむになっちゃった

ねらい	話の内容を正確に聞く	
	活動の流れ	留意点など
	<ol style="list-style-type: none"> 1 ゲームの約束を確かめる。 2 一人がお話を読み、もう一人が復唱していく。 	<p>お話の本を1文ずつ読み、その都度復唱することを知らせる。</p> <p>2人組とする。</p> <p>句点が10個まで正確に復唱することができたらクリアー。その後交代する。途中で間違えたら、その時点で交代する。</p>

気分です

ねらい	自分の思ったことや感じたことを話す	
	活動の流れ	留意点など
	<ol style="list-style-type: none"> 1 ゲームの約束を確かめる。 2 教師の話聞く。 3 「気分です」のリレーをする。 	<p>話を聞いて「気分です」と1人ずつ答えることを知らせる。</p> <p>「気分です」と答える順番をグループで決めさせておく。(グループは4～5名程度)</p> <p>話を聞いた後で、全グループ一斉に1人ずつ「気分です」をリレーする。</p> <p>早く言い終わったグループ順に順位を付ける。ただし、同じグループ内で同じ言葉を言ったら失格となる。</p>

指導を広げるために

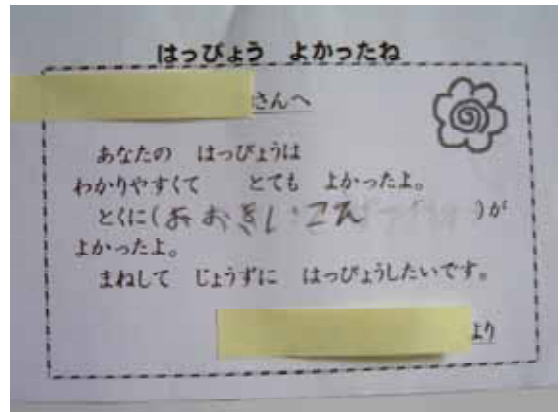
1 生活科の表現活動

生活科の学習では、活動への思いや願いを出し合ったり、活動や体験したことを友達に表現したりする場面がよくあります。子どもの表現への意欲を大切にしながら、段階に応じて発表の仕方が分かるワークシート等を準備し、話し方や聞く・話す態度をしっかりと身に付けさせていきたいものです。

例：単元名「あそびのたつじん」

小単元名 「たのしかったあそびをしょうかいしよう」

- 1 紹介したい遊びを決める。
- 2 話す内容を考える。
- 3 必要な物を準備する。
(絵や写真、使った道具など)
- 4 準備した物を用いて話す。
- 5 友達紹介を聞いて、「よかったねカード」を書く。
「よかったねカード」の種類
遊び方の工夫が「よかったね」
楽しそうに遊んでいて「よかったね」
発表が「よかったね」



2 その他のアイデア

聞き耳タイム

しっかり聞き取ることを目的とし、話の内容についていくつか質問(クイズ)を出し、回答させる。クイズ番組のようにし、3問程度の出題でパーフェクトであればシールを渡す。

ボリュームスピーチ

声のボリュームを意識させるために、話す環境を変えて話す。

例： 隣の人と グループで(4～8名) 学級全体で の順に話し声の大きさを指導し、日によってランダムに話す環境を変える。環境に応じた声の大きさを「声のものさし」として、教室の壁面に掲示し、常時意識できるようにしておく。

お話聞かせるね

保育園生との交流で、学習した事柄を紙芝居や劇、あるいは絵本の読み語りや保育園生に伝える活動。年間を通じて交流することにより、幼保小連携をはかる手立ての一つにもなる。幼稚園・保育園児にとって入学準備、小学生にとっては発表・表現の場として有効である。

5 指導のアイデア紹介

1 友達のよいところを見付けよう

友達のよいところを見付ける指導をすることは、クラス内の良好な人間関係をつくるうえでとても重要になります。特別活動などの時間を利用して取り組むとよいでしょう。



【指導のポイント】

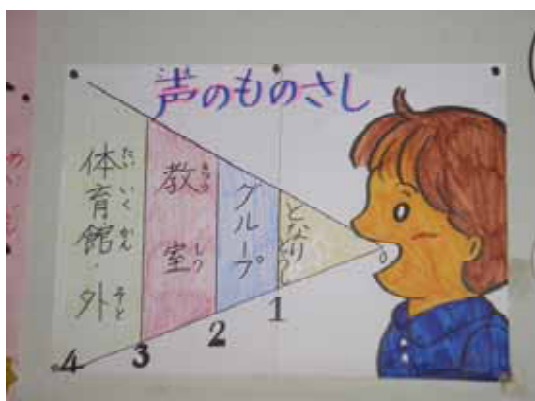
～活動の流れ～

- 1 友達との過ごし方を振り返る。
(日ごろの生活、遊びの場面などから思い起こさせます。)
- 2 友達のかかわりでうれしかったことなどを考える。
(そのとき感じた感謝の気持ちを思い出させましょう。)
- 3 友達のよさを知り、カードを書く。
(友達一人一人によいところがあることに気付かせます。)
- 4 仲良しの木にはる。
(クラス全体に広げる手立てとなります。)

指導の時期は1学期中旬ごろがよいでしょう。しばらくありがとうカードを書かせ、慣れてきたら、友達が優しい行動をとっているのを見たとき、どう思ったかを葉っぱのカードに書かせていきます。りんごの実の方を「～してくれてありがとう」カード、葉っぱの方を「やさしい人見かけたよ」カードというように分けると、子どもたちも書きやすくなると思います。

2 声のものさし

場に応じた声の大きさを視覚的に表すものです。指導は、年間を通して行います。教室の前面に掲示し、発表時に意識させるようにするとよいでしょう。



【指導のポイント】

場を設定し、それぞれの声の大きさを、実際に話をさせてみます。その場にふさわしくない声の大きさを出すと、聞き取りづらかったり、うるさかったりすることを体験させることが必要です。また、教師自ら模範を示す意味で、日ごろの話し方に気を付けましょう。

- 0・・・静かに
- 1・・・隣同士で話すときの声
- 2・・・グループで話し合うときの声
- 3・・・教室で発表するときの声
- 4・・・体育館や外で話すときの声

3 登校してからの提出物について

毎日の提出物をきちんと忘れずに提出させることを、スモールステップと繰り返しにより指導していきます。家庭との連携により、さらに徹底した指導ができます。



【指導のポイント】

- 1 かばんの中のものは全部引き出しに入れ、連絡袋の中のものは、全部出させるようにする。
(必ず、空になることを指導しましょう。)
- 2 かごなどを準備し、提出物コーナーを作る。
(宿題や連絡帳をどこに出すか分かるように、教師がお手本の分を出しておくとういでしょう。慣れてきたら、かごだけ出しておくだけにし、3学期ごろにはかごなしでも出せるようにしたいものです。)
- 3 連絡帳の出し方を指導する
(保護者からの連絡を確実に把握するために、保護者に協力を依頼し、毎日、連絡帳に「れんらくあり」「れんらくなし」の札を挟むようにしてもらおうと便利です。)

4 手洗いの指導

特設の指導に加えて、常時方法が分かるような掲示物を水道そばにはっておきます。児童は、順番に従い、手洗いを進めることができます。



【指導のポイント】

洗った後お互いに確かめさせ、教師もきちんと点検をします。

- 1 手の甲側(手首まで洗っているか、指と指の間はどうか、爪に汚れが残っていないか。)
- 2 手のひら側(手首まで洗っているか、指と指の間はどうか、手のひらのくぼみに汚れがないか。)
- 3 手の側面(小指の外側から手首の方まで汚れがないか。)
- 4 教師もいっしょに手を洗い、モデルを示すことが大切です。

5 トイレの使い方

トイレの使い方について、視覚的な教材を用いた指導を行う際の1時間の活動の流れと留意点を示しています。座る位置や出した後の拭き方などを丁寧に指導するようにしましょう。

【活動の流れ】

- 1 トイレの悪い使い方を見せる。
ノックをしない，便器の後ろの方に座る，流さない，流しても足でレバーを押す，トイレットペーパーを長く出す，スリッパを並べない，手を洗わないなど，随所に悪い例を入れて見せ，悪いところは子どもたちに言わせる。
- 2 便器の正しい座り方について知らせる。
足をどの辺りに置いたら，おしりがきちんと便器の上に来るかを絵で説明する(右写真)。
- 3 出した後の拭き方を知らせる。
腕が動く掲示物を準備し(右写真)，大と小の時の違いを教える。
- 4 次の人が気持ちよく使えるように考えさせる。
レバーは手で押す，紙を使いすぎない，流す，スリッパは並べることで，次の人も気持ちよく使えることを知らせる。スリッパ並べが停滞していたら，名簿に日付を書いたものをトイレの入り口に準備しておく，意識して並べるようになる。(右写真)

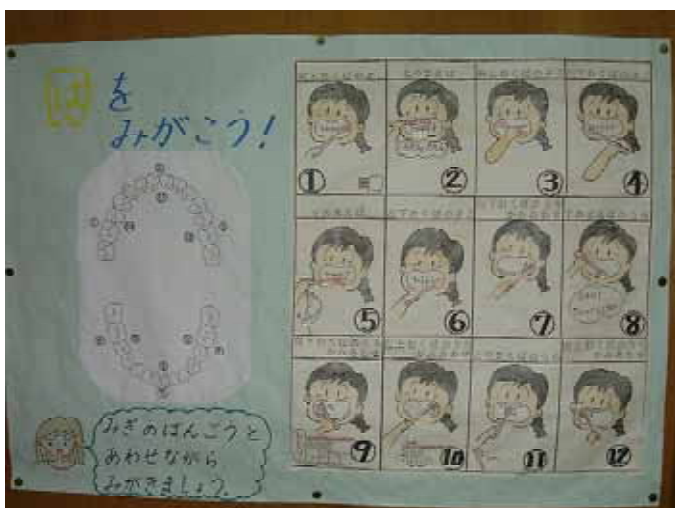


教師は，職員トイレだけでなく児童用のトイレも使いましょう。使い方の手本になります。また，きちんと使うことができているかチェックすることもできます。



6 歯磨きの指導

給食後，歯磨きをしますが，磨き方については，特設の指導に加えて，常時方法が分かるような掲示物を水道そばにはっておきます。児童は，順番に従い歯磨きを進めることができます。



【指導のポイント】

鏡を見ながら自分の口の中を確かめさせたり順番通りにし，漏れがないか確かめさせたりします。また，教師側できちんと磨けているか点検をします。その際に実際に歯ブラシを使いながら「ここがよく磨けていないよ」と声を掛け，その後自分で磨かせます。再度点検をし，上手に磨くことができたなら「きれいになったね」とその子の頑張りを認めるようにするとよいでしょう。

7 登下校の指導

一人で登下校をしたり，決まった道を通らなかつたりすると危険なことや困ったことがあることを知り，上級生や友達と一緒に決まった通学路を正しく登下校することができるようになるための指導です。ここでは，学級活動の時間を使った指導例を紹介しています。登下校の安全については，保護者や地域との連携を図った指導も大切です。

< 展開例 >

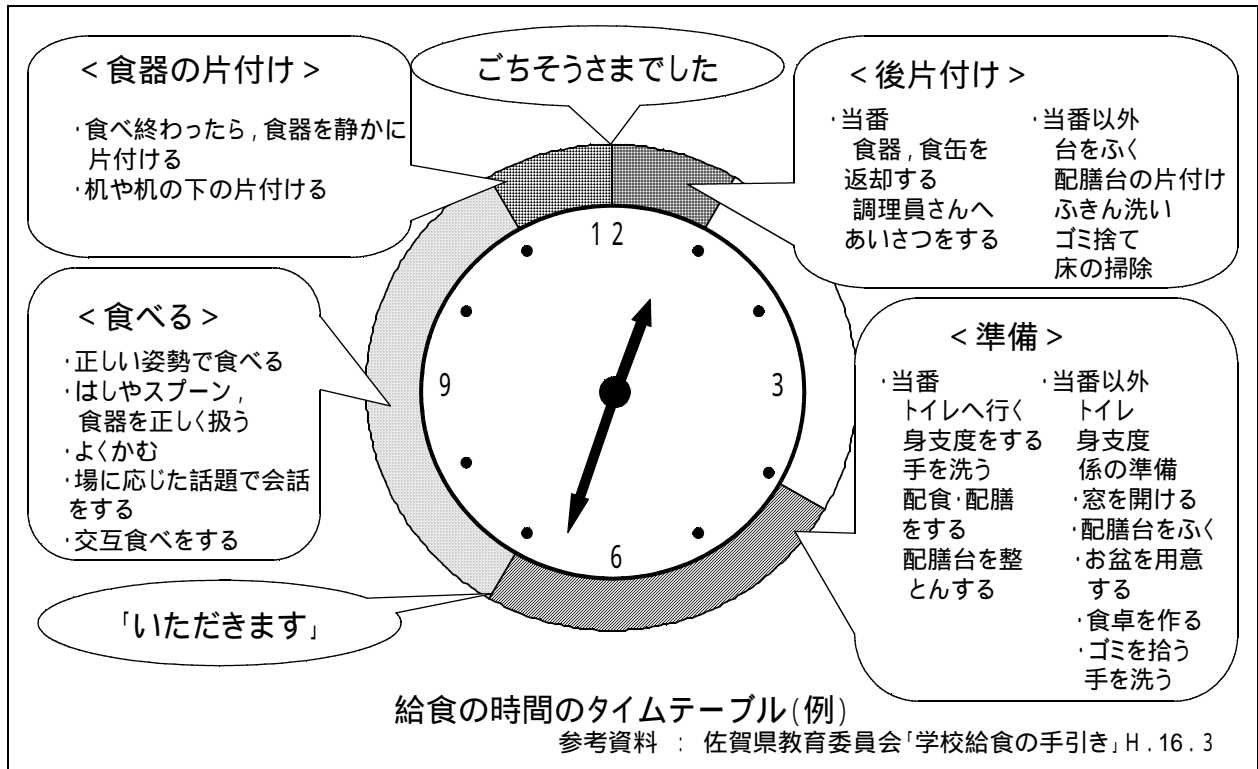
活動内容	指導上の留意点	備考
1 自分たちの登下校の様子を思い出す。	登下校の様子をビデオに撮っておき，その様子を見ながら思い出させるようにする。 だれとどのように登下校をしているのかを振り返らせ，問題点に気付かせる。 ・ 道に広がって行っている ・ 遊びながら行っている ・ 1人で行っている	ビデオ
2 本時のめあてを知る。	出てきた意見を，交通安全の視点，防犯の視点に分けて板書し，2つの視点から安全な登下校の仕方を考えさせていくようにする。	ペープサート
あんぜんな とうげこうのしかたを かんがえよう		
3 登下校する際の危ないことや困ったことを考えて発表する。	意見が出なければ，「こんなことが起きたことがあるよ」と事例を紹介するのもよい。その上で友達や上級生と一緒にだったらどうだったか考えさせる。	
4 どの道を通ってきているか思い出す。	校区内の絵地図を示し，どの道を通って登下校しているか確かめさせる。このとき目印になるものを地図に絵で記入しておくとう分かりやすい。	校区内の絵地図
5 もしも違う道を通って登下校したらどんな危ないことや困ったことがあるか考える。	道に迷ったり，知らない道で事故に遭ったりすることなどを予想させ，具体的な様子をペープサートで示す。	ペープサート
6 今日の学習で分かったことやこれから頑張ることの合い言葉を覚える。	各自にどこまで誰と一緒に帰ることができるかについても確認させる。 覚えやすい合い言葉を示す。 例：友達と一緒に，いつもの道で	
7 学習後の確認をする。	本時の学習後1週間の様子をチェックカードで振り返ることを確認する。	チェックカード

8 給食の指導

給食指導は、準備から食事のマナー、後片付けまで多岐に渡っています。ここでは、日々の給食指導に役立つ取り組みを紹介します。

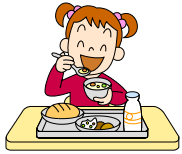
【給食時間のタイムテーブル】

1年生は、時計が読めない子どももいるので、直接時計に目安を示しておくとう分かりやすくなります。



【給食時間の年間指導計画による 週間による意識付け】

学級で毎月頑張り週間を設定し、子どもに望ましい行動の意識化と自分の行動の点検をさせます。頑張りカードを準備し、給食の年間指導計画や子どもの日ごろの様子などを考慮して、めあてを決め、取り組ませていきます。給食係の係活動として取り組ませていくこともできます。

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月
指導内容	力を合わせて安全に準備と後始末をする。 当番以外は静かに待つ。	よい姿勢で食べる。 正しい配膳や食べる順序について知る。	よくかんで食べる。	正しい手洗いの仕方を知る。 手洗い場の使い方を知る。 きちんとした身なりをする。	口の中に食べ物を入れたままで話をしない。	朝ご飯を食べてくる。 好き嫌いをしないようにする。
月	11月	12月	1月	2月	3月	
指導内容	食器を大切に扱う。 食べ残しがどうなるか知る。	食後の過ごし方を知る。	食べ物が食卓に届く間にお世話になっている人について考える。 心から食前食後のあいさつをする。	教室をきれいにし、気持ちよく食べる。 当番や係の仕事を楽しんでする。	準備や後始末が上手にできたかを反省する。 楽しく食べることができたかを反省する。	

参考資料 佐賀県教育委員会「学校給食の手引き」H16.3

9 各学校の特色を生かした取り組み

【複数教師による指導体制の工夫】(伊万里市立大坪小学校)

本実践は、伊万里市立大坪小学校の2年生で行われた実践です。「子どものためのプラス1加配である」「児童の学習習慣や生活習慣の確立が目的である」などを共通理解し、2学級を3人の教師で育てるという考えの下に、学年経営が行われました。従来のような担任と学年1人のTTという関係ではなく、3人の教師で76人の子どもたちを育てるという視点での取り組みをしています。特徴としては学年主任、1組担任と2組担任の3人を中心に授業をすることになり、算数においては、更に指導法改善担当がTTとして授業に入るという形を取っています。

【学校・学年での共通実践】(佐賀市立赤松小学校)

1学期の子どもの実態を踏まえ、今、子どもに何が足りないか、何をどう指導すれば更に生き生きとした瞳の子どもになるか、学習がより効果的に定着するのかなどを全職員で検討しています。その中から「あいさつをしよう」「よくきこう」「次の時間の準備をしよう」の3項目を取り上げ重点的に指導を行っています。また、子どもの家庭での実態を把握するために、「健康と生活に関するアンケート」を実施しています。アンケートを実施する際には親子で話し合いながら、一緒に記入してもらうようにしています。

家庭と学校で協力して虹を架け合い、生活力のある子どもを育てていくための取り組みとして、「レインボー作戦」と名付け、カードを作成し実践しています。

【幼保小の指導者間の共通理解】(多久市立北部小学校)

発達は連続していると考え、育ちをつなげていくために、幼保小の指導者がお互いに子どもたちの育ちを知ることは大切であるとして実践に取り組んでいます。集団の中で落ち着いて話を聞くことや話を相手にうまく伝えること、思い通りにならないときに我慢すること、友達の輪の中で遊ぶことなど、子どもたちに人とかかわる力をはぐくむことを念頭に置き、就学前教育と小学校教育の適切な接続の在り方について研究を進めています。

幼保小の指導者が共通理解を図り重点指導項目を設定し、4歳児から2年生までの4年間の子どもの育ちを見通した系統表を作成し、その目標に迫る実践が各幼稚園や保育園、小学校で行われています。

詳しくは佐賀県教育センターホームページ 授業に役立つ実践研究 低学年の生活・学習習慣の育成のWebページで御覧ください。

<アドレス>

http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h18/seigaku/index.htm

6 指導項目一覧表

1 身辺自立に関すること


項目	具体的な項目	入学当初	2年生
1 清潔・健康	手洗い・うがい	食事(給食)の前に手を洗う トイレの後に手を洗う 外から戻ったら手を洗い, うがいをする 石けんで手を洗う	汚れたら手を洗う 指のすきまや爪の先も丁寧に洗う
	歯磨き	給食後に歯磨きをする	鏡を見て奥歯まで磨く 磨き残しをしないようにする
	つめ	家の人に切ってもらう	自分で切る
	ハンカチ・ティッシュ	身に付ける 清潔なハンカチを使う ティッシュがなくなったら補充する	必要なときに使う
2 衣服	着衣脱衣	1人で着衣脱衣をする 脱いだ服をたたむ	衣服の調節をする 清潔な衣服を身に付ける 身だしなみに気を付ける
	靴	靴をきちんと履く (マジックテープを止める, 紐を結ぶ, かかとを踏まない) 履き物をそろえる 自分の靴箱に入れる 上靴を履く	決まった場所に靴や 上靴をそろえて置く 靴や上靴を自分で洗う
3 排泄	排泄	1人でトイレに行き, 排便 排便をする 休み時間に排尿・排便を済ませる 授業中は, トイレに行きたいことを先生に伝える	決まったリズムで排便する
	トイレの使い方	トイレを使った後, 水を流す スリッパを並べる 必要な長さだけトイレト ペーパーを使う	汚さない使い方をす る(立つ位置や座る位置 に気を付ける) 汚したら先生に言う 汚したら自分でできる分はきれいにす
4 健康	早寝早起き	自分で起きる	決まった時間に寝る, 起きる(睡眠時間の確保)
	遊び	好きな(自分に合った)遊び をする	外で遊ぶ 友達と遊ぶ(少人数で) 集団で遊ぶ
5 安全	登下校	決められた通学路を通る 交通ルールを守る 複数で登下校をする 寄り道をせずにまっすぐ帰 る 防犯ブザーを携帯する 家族が迎えに来る場合は, 先生にそのことを言う	自宅以外の場所(祖父母宅, 習い事, 学童保育 など)に行くときは, 事前に担任に連絡し, 間違え ずに行く
	室内	廊下は静かに歩く 室内では静かに過ごす	学校での生活のルールを守る(上靴や下靴の区別 など)

		他の人の安全にも注意する (石などを投げない, 周囲を見て傘の開け閉めをするなど)
	遊具の使い方	安全な遊具の使い方をする 友達と仲良く遊具を使う
6 物の管理	物の整理・整とん	自分の物と人の物の区別をする 持ち物に記名をする 自分の持ち物がどこにあるか分かる 持ち物の整理整とんをする 持ち帰る物が分かり, 帰りの支度を 週末に持ち帰る物を持ち帰って洗濯してもらい, 週明けに忘れず持ってくる
7 掃除	掃除の仕方	掃除用具の使い方を知り, 正しく使う 決められた場所に道具を片付ける 時間を守って掃除する 決められた場所を最後まできれいに掃除する

2 食べることに関すること

項目	具体的な項目	入学当初	2年生	
1 マナー	姿勢	椅子に座って食べる ひじを付かず, 背筋を伸ばして食べる	食べ終わるまで姿勢を正しく保つ 食べ終わるまで座っている	
	茶碗やはしの持ち方	茶碗は手のひらで下から持ち, 親指を横にそえる はしの持ち方に気を付ける	習ったはしの持ち方になるように練習する	
	食べ方	朝ご飯を食べる		
		こぼさずに食べる		音をたてずに食べ, 飲み込んでから話すご飯(パン)とおかずを交互に食べる
		時間を考えて食べる		時間内に食べる
	苦手なものでも食べようとする		好き嫌いなく食べる努力をする	
	食べることができる量(少量でも)を食べる	自分が食べることができる量に調整してもらう	つぎ分けられた量を食べる	
2 給食	身支度	エプロン, マスク, 帽子を身に付ける 石けんで手を洗う エプロン, マスク, 帽子の準備をし, 爪を切る	エプロン, マスク, 帽子を週末持ち帰り, 洗濯してもらう エプロン, マスク, 帽子が汚れたら持ち帰って洗ってもらう	
	準備・配膳	決まった手順で準備や配膳をする 先生と一緒にこぼさず, 均等につぎ分ける	時間内に準備や配膳をする 自分たちで準備や配膳をする	
	片付け	約束を守って片付ける	忘れずに片付ける	

3 対人関係に関すること

項目	具体的な項目	入学当初  2年生		
1 コミュニケーション	あいさつ・返事	名前を呼ばれたら返事をする 聞こえる声で返事をする	「はい」「いいえ」を言う	
		あいさつを返すことができる	元気にあいさつをする 進んであいさつをする	
		家族や近所の方にあいさつをする 先生や友達にあいさつをする 授業の始めと終わりのあいさつをする		
	会話	「ありがとう」「ごめんなさい」などを言う		
2 ルール	遊び・活動	順番を守る	遊びや活動の約束を守る	
	時間	授業始まりの時間を守る (チャイムの合図)	約束をした時間を守る 時計を見て行動する	規則正しい生活をする
3 友人関係	友達づくり	友達と一緒に遊ぶ	友達のよさを認める	相手の立場になって考える
		友達を遊びに誘う 友達とけんかの後などは仲直りをする	だれとでも仲良くする	友達がけんかをしているときなどの自分の行いが分かる
	集団行動	集団の中に入る 整列をする	少人数グループで行動する 集団(学級, 学校, 全校)で活動する	下級生のお手本となるように行動する
4 公共心	公共物の利用	席を離れるときは椅子を机の下に入れる		
		自分の物とみんなの物の区別する みんなの物を元の場所に片付ける みんなの物を大切に扱う	次に使う人が使いやすいように片付ける 壊れている物があったら, 先生に知らせる	
5 当番活動	日直	忘れずに活動する	責任をもって友達と活動する	最後まで役割を果たす
	掃除	みんなと一緒にゴミ拾いを する ほうきやちり取りを友達と使って掃除する 先生や上級生に手伝ってもらって雑きんを絞る	隅々まで協力して掃除する	場所に合った掃除の仕方を友達と考えて掃除する

4 学習に関すること

項目	具体的な項目	入学当初 	2年生	
1 授業前	用具の準備	家の人と一緒に、次の日の学習に必要な用具をそろえる	自分で、次の日の学習に必要な用具をそろえる	
	提出物	提出物があることを家の人に伝える(渡す) 提出物を先生(決まった場所)に出す		
	宿題	忘れずに宿題をする 先生(決まった場所)に宿題を出す	丁寧に最後まで宿題をする やさしい読み物(絵本など)に興味をもち、読む	
	登校後の片付け	ランドセルから道具を出して、ふたを閉める ランドセルの向きに気を付けて棚に置く 用具を決まった場所に片付ける(引き出しやロッカーの中など)		
	授業前の用具の準備	次の時間に必要な用具(教科書やノートなど)を見本を見て机の上に出す 必要な用具を活動しやすい場所に置く	使う物を考えて用具を出す 使いやすいように置く	
	身構え	なるべく休み時間にトイレを済ませる 休み時間に活動に応じた身支度をする(体操服や水着などに着替える)		
2 授業中	着席	時間がきたら席に着く 授業中は勝手に立ち歩かない	必要な時間、席に着いている 私語、手遊びをしない	
	姿勢	姿勢に気を付けて座る(かかとを床に付き、背筋を伸ばし、机とおなか、こぶし1つあける)	必要な時間姿勢を正しく保つ (聞くとき、話すとき、読むとき、書くとき)	
	学習への構え	課題にまず自分で取り組む(1人でやってみる)	丁寧に作業をする 最後まで課題に取り組む	課題に進んで取り組む
		分からないことがあったら先生に聞く		
	聞く	先生や友達の話最後まで聞く 私語をせずに聞く 話す人を見て聞く	うなずきながら聞く 自分の考えと同じか違うかを考えながら聞く 聞いて、分からないことがあったら尋ねる	
	話す	はい、いいえなど意思表示をする 相手が話し終わってから話す 伝えたい思いを話す	声の大きさを考えて話す 順番を考えて話す 言いたいことをはっきり話す 「です」「ます」を付けて、正しい言葉遣いで話す 発言の話を身に付ける(さんと同じ考えです、さんと違います、君の意見に付け加えをします、みなさんどうですかなど)	
	発表	発言するときは手を挙げる 手の挙げ方に気を付ける 指名されてから発言する	学級で決めた発表の仕方によって発表をする (他の人が全員自分を見てから話し出す、発表するときは立つ、発言の話型など)	
	書く	鉛筆(筆記用具)の持ち方を正しくする	字を丁寧に書く 筆順に気を付けて字を書く ノートの右開き・左開きに気を付けて書く	板書通りに書き写す 書いた文字や数字を見直す
		プリントなどに先生と一緒に記名をする	自分で記名をする	
筆記用具など	鉛筆(適切な筆記用具)で書く 下敷きを使う 間違ったら消しゴムで消す 鉛筆を削る はさみ、のりを使う	定規で線を引く		

